
平成25年度
教育委員会点検・評価報告書

平成26年3月
浜松市教育委員会

目次

I 点検・評価制度の概要	
1 はじめに	1
2 目的	1
3 実施方法	1
II 施策の点検・評価	
第2次浜松市教育総合計画『はままつの人づくり』平成25年度検証報告書	
1 第2次浜松市教育総合計画の進行管理について	2
2 平成25年度の取組状況	
検証Ⅰ 「目指す子どもの姿」の達成状況	4
検証Ⅱ 重点施策の取組状況	
1 「目指す子どもの姿」の共有	8
2 各教科・領域の9年間の系統性を踏まえた指導の充実	11
3 はままつ人づくり教育推進事業への取組	18
4 浜松市幼児教育振興アクションプログラムの推進	23
検証Ⅲ 基本計画の取組状況	25
3 具体的取組に対する子どもの表れについての指標・目標値	52
4 平成25年度の評価と今後の取組	53
5 はままつの教育推進会議：教育総合計画 専門委員の意見	55
6 庁内会議での専門委員や有識者等の意見	57
III 教育委員会の活動状況	65
1 教育委員会組織	68
2 教育委員会会議の開催	68
3 委員協議会の開催	69
4 移動教育委員会「語り合おう！はままつの教育」の開催	69
5 広報活動	72
6 平成25年度の教育委員会活動の検証と今後について	73
(参考)教育委員会議案・報告事項等一覧	74
(参考)教育委員会の活動状況一覧	76
IV 附属機関及び庁内会議	
1 附属機関	78
2 庁内会議	80
V まとめ	86

I 点検・評価制度の概要

1 はじめに

すべての教育委員会は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」に基づき、毎年、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成して議会に提出するとともに、公表することが義務づけられています。また、点検及び評価を行うにあたり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとされています。

本報告書の施策の点検・評価は、第2次浜松市教育総合計画の平成25年度における取組状況調査や目標値の達成状況等に基づいた、検証評価の結果を活用しています。

このほか、教育委員会会議の開催結果や教育委員の活動状況、附属機関や庁内会議の主な審議・活動内容等を報告します。

※参考「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」

(教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等)

第二十七条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 目的

主要な施策の取組状況について点検及び評価を行い、課題や取組の方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図ります。

また、教育委員会の活動状況と併せた報告書を作成し議会へ報告、公表することにより、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進することを目的とします。

3 実施方法

(1) 施策の評価

浜松市教育委員会では、平成23年4月に、浜松市立幼稚園、学校における教育を中心とした本市の教育行政の指針である「第2次浜松市教育総合計画『はままつの人づくり』」を策定しました。施策の評価は、この「第2次浜松市教育総合計画」について毎年度行っている進行管理に基づく平成25年度の検証・評価を活用します。

また、参考として、はままつ教育推進会議など今日的な課題の解決や作成中の方針などを審議している主な庁内会議について、専門委員や有識者等外部委員の会議での意見を取り上げます。

(2) 学識経験を有する者の知見の活用

「はままつ教育推進会議：教育総合計画」の専門委員の意見等を活用します。

(3) その他

施策の評価に加え、平成25年度の教育委員会の活動状況、教育施策の推進や改善のために設置されている附属機関や庁内会議の活動状況等を報告します。

Ⅱ 施策の点検・評価

第2次浜松市教育総合計画『はままつの人づくり』平成25年度検証報告書

1 第2次浜松市教育総合計画の進行管理について

1 評価・検証のねらい（第2次浜松市教育総合計画 P31）

- 第2次浜松市教育総合計画を着実に実施する。
- 必要に応じて具体的な取組について見直す。

H23年度 目指す子どもの姿の共有

H24年度 目指す子どもの姿の実現に向けた具体的な取組の推進

H25年度 取組の質を問う

H26年度 取組の質を高める

2 調査の方法

① 取組状況調査

- 計画に沿って園・学校・関係機関がどのように取り組んでいるか。
- その取組に対する子どもや保護者の意識はどうか。

② 達成状況調査

- 目指す子どもの姿にどれだけ近づくことができているか。
- 具体的な取組に対する子どもの表れの目標値にどの程度迫っているか。

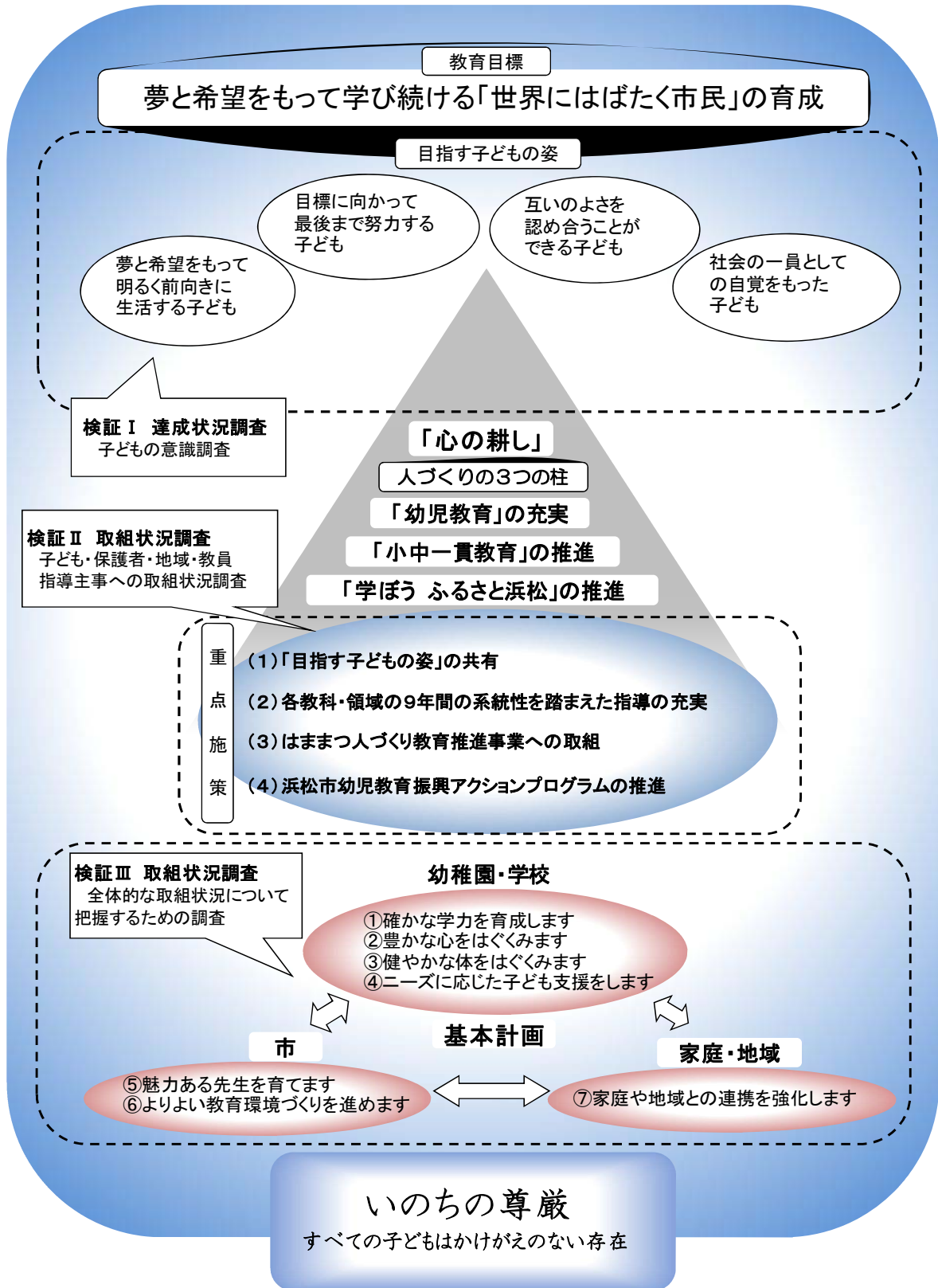
3 調査の対象

- 幼稚園・学校：浜松市立の幼稚園・学校
- 子ども：浜松市立の学校に通学する児童・生徒
- 保護者：浜松市立の各園・学校の保護者
- 教員：浜松市立の各園・学校の教員
- 評議員：各学校の学校評議員
- 教育委員会事務局等：教育委員会事務局の各課及び浜松市役所内の関係各課

4 留意点

- ① 調査に軽重を付ける。
 - 重点施策については詳細な調査を行い、取組状況を詳しく把握する。
 - 重点施策以外の基本計画については簡潔な調査を行い、全体像をとらえる。
- ② 各園・学校の負担軽減を図る。
 - 教育委員会事務局各課でアンケート等を調整・集約し、調査の重複を避ける。
 - 子どもや保護者への調査についてはマークシート形式で行う。
- ③ 調査期間は平成25年10月～11月とする。

5 取組状況調査の全体像



2 平成 25 年度の取組状況

検証 I 「目指す子どもの姿」の達成状況

- (1) 夢と希望をもって明るく前向きに生活する子ども
- (2) 目標に向かって最後まで努力する子ども
- (3) 互いのよさを認め合うことができる子ども
- (4) 社会の一員としての自覚をもった子ども

「目指す子どもの姿」の達成状況 考察

『目指す子どもの姿』の達成状況については、浜松市立の小・中学校に通学する児童・生徒を対象に、アンケート調査による意識調査を行った。

★子どもの意識は年々向上している

「目指す子どもの姿」に関する子どもの意識について「そう思う」「だいたいそう思う」を合わせた肯定的な回答の割合を過去 3 年間で比較すると、以下に示すようになる。

目指す子どもの姿	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度
夢と希望をもって明るく前向きに生活する子ども	86.9%	88.8%(1.9)	89.5%(0.7)
目標に向かって最後まで努力する子ども	81.3%	83.9%(2.6)	84.3%(0.4)
互いのよさを認め合うことができる子ども	81.0%	83.7%(2.7)	83.5%(0.2)
社会の一員としての自覚をもった子ども	71.8%	77.5%(5.7)	80.6%(3.1)

※ () は前年比較値

子どもの意識は、今年度、全体として、「互いのよさを認め合うことができる子ども」の項目でわずかな下降はあったものの、他の項目については、前年度よりも向上している。また、肯定的な回答の中でも、「そう思う」と自信をもって答える子どもの割合も、増加している。それは、第 2 次浜松市教育総合計画がスタートした平成 23 年度と比較しても高まっており、この 3 年間で、意識は着実に向上している。特に「社会の一員としての自覚をもった子ども」については、大きな向上が見られる。このような意識の向上は、人づくりの 3 つの

柱である「幼児教育の充実」「小中一貫教育の推進」「学ぼう ふるさと浜松の推進」とともに、中学校区で「目指す子どもの姿」を明確にし、幼稚園・学校、家庭、地域が協力して子どもを育ててきたことによるものと考えられる。

★「いのちの尊厳」を根底に据える

昨年度、どの子どももかけがえのない存在とする「いのちの尊厳」に立ち返ることを再確認し、「いのちの尊厳」に関する調査項目を設定した。

調査の結果、「私には駄目なところもあるけれど、いいところもある。」という設問に「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた子どもが、小学校低学年で 9.5%、高学年で 15.5%、中学生では 25.3%いた。（「いのちの尊厳」に関する調査①）また、「私には、嫌なことがあったときに、話を聞いてくれたり、そばにいてくれたりする人がいる。」という設問には、小学生、中学生ともに、10%以上の子どもが「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた。（「いのちの尊厳」に関する調査②）

教員は、一人一人の子どもに愛情をもって接し、温かいコミュニケーションづくりや人間関係づくり、互いの人格を尊重し合う集団づくりに努めてきた。来年度も、同様の取組を継続し、どの子どもについても、あるがままの姿を受け入れながら、自己肯定感と他の人も大切にすることを育てていくことが大切である。また、嫌なことや困ったことがあったときに、一人で悩んだり苦しんだりすることのないよう、どの子どもに対しても、幼稚園・学校、家庭、地域が力を合わせて見守り育てていくことが大切である。

「目指す子どもの姿」の達成状況 調査結果

(1) 「夢と希望をもって明るく前向きに生活する子ども」に関する調査

(小学校低学年) やってみたいこと、できるようになりたいことがある。

(小学校高学年) 「こんな自分になりたい」という気持ちをもって生活している。

(中学生) 理想とする生き方ややりたい仕事、「このようになりたい」という思いをもっている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	59.6%(0.1)	29.9%(0.6)	8.4%(0.6)	2.1%(0.1)
小学校低学年	78.0%(1.7)	16.0%(1.1)	4.3%(0.6)	1.7%(0.0)
小学校高学年	45.2%(2.6)	41.3%(0.5)	11.3%(1.9)	2.2%(0.2)
中学生	42.0%(1.0)	41.6%(1.7)	13.3%(0.5)	3.1%(0.2)

※ () は前年比較値

(2) 「目標に向かって最後まで努力する子ども」に関する調査

(小学校低学年) めあてに向かって、できるようになるまでやり続けるようにしている。

(小学校高学年) 自分の目標に向かって、できるまで努力をしている。

(中学生) 自分が決めた目標に対して、納得がいく結果が出るまであきらめずに努力する。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	40.0%(3.3)	44.3%(2.9)	13.4%(0.3)	2.3%(0.1)
小学校低学年	58.9%(5.7)	32.6%(1.8)	6.0%(3.4)	2.5%(0.5)
小学校高学年	35.8%(1.7)	48.0%(2.1)	14.1%(0.1)	2.1%(0.3)
中学生	20.3%(0.6)	57.3%(0.2)	20.2%(0.9)	2.2%(0.1)

※ () は前年比較値

(3) 「互いのよさを認め合うことができる子ども」に関する調査

(小学校低学年) 友だちのよいところを見つけることができる。

(小学校高学年) 自分と立場や考えが違っていても、相手のよさを認めることができる。

(中学生) まわりの人と、よさを認め合えるよい関係を築いている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	41.0%(0.6)	42.5%(0.4)	13.4%(0.0)	3.1%(0.2)
小学校低学年	50.9%(4.2)	31.5%(2.0)	13.2%(1.7)	4.4%(0.5)
小学校高学年	33.6%(2.4)	50.3%(0.8)	13.9%(1.4)	2.2%(0.2)
中学生	32.2%(2.4)	54.6%(1.7)	11.2%(0.9)	2.0%(0.2)

※ () は前年比較値

(4) 「社会の一員としての自覚をもった子ども」に関する調査

(小学校低学年) よいことを進んでしようとしている。

(小学校高学年) 自分の学級や学校がよくなるように考えて行動している。

(中学生) 自分の学校や地域がよりよくなるように考えて行動している。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	38.1%(7.0)	42.5%(3.4)	16.1%(3.4)	3.3%(0.2)
小学校低学年	56.6%(0.6)	32.0%(0.2)	8.6%(0.3)	2.8%(0.1)
小学校高学年	27.4%(5.9)	49.7%(2.0)	19.4%(3.6)	3.5%(0.3)
中学生	13.5%(0.6)	52.4%(2.4)	29.7%(1.5)	4.4%(0.3)

※ () は前年比較値

「いのちの尊厳」に関する調査①

【全学年共通】 私には駄目なところもあるけれど、いいところもあると思う。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	52.8%	33.3%	10.4%	3.5%
小学校低学年	64.5%	26.0%	6.6%	2.9%
小学校高学年	47.5%	37.0%	11.8%	3.7%
中学生	26.1%	48.6%	20.3%	5.0%

※新規の設問

「いのちの尊厳」に関する調査②

(小学校低学年) わたしにはいやなことがあったときに話を聞いてくれる人がいる。

(小学校高学年・中学生) 私には嫌なことがあったときに、そばにいてくれる人がいる。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	59.8%	26.5%	9.0%	4.7%
小学校低学年	67.1%	19.4%	7.9%	5.6%
小学校高学年	57.0%	29.6%	9.4%	4.0%
中学生	39.6%	44.0%	12.5%	3.9%

※新規の設問

検証Ⅱ 重点施策の取組状況

- 1 「目指す子どもの姿」の共有
- 2 各教科・領域の9年間の系統性を踏まえた指導の充実
- 3 はままつ人づくり教育推進事業への取組
- 4 浜松市幼児教育振興アクションプログラムの推進

重点施策 1 「目指す子どもの姿」の共有 考察

★さらなる周知と幼稚園・学校、家庭、地域が一貫性のある指導をしていく

学校への調査の結果を見ると、中学校区の「目指す子どもの姿」は、保護者や地域の幅広い人たちがかかわりながら、実現に向けた取組が確実に進められている。特に、基本的な生活習慣、その中でも挨拶を切り口に、保護者や地域の人たちと連携して「目指す子どもの姿」の実現に迫っていこうという取組が見られる。(学校への調査①②)

「中学校区の『目指す子どもの姿』を知っている。」という設問に、「そう思う」「大体そう思う」と回答した保護者は、小・中学校全体で71.3%で、昨年度より12.3%増加した。また、「中学校区の『目指す子どもの姿』を意識して、家庭でできることを行っている。」という設問に、「そう思う」「大体そう思う」と回答とした保護者も、10.2%増加した。(保護者への調査①②)今年度、学校評議員に対して「中学校区では、学校・家庭・地域が、『目指す子どもの姿』に向けて一貫性のある指導をしているか。」という質問を新設した。81.1%の学校評議員が「指導している」と回答している。(学校評議員への調査②)これらの結果からも、学校、家庭、地域が連携協力して、実現に向けた一貫性のある取組が推進されていると評価できる。

一方、「中学校区の『目指す子どもの姿』を意識して、家庭でできることを行っている。」という設問に、「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた保護者は、小・中学校全体で35.4%であった。「目指す子どもの姿」の更なる周知と家庭の協力を得るために、各種たよりや会合で折に触れ知らせる取組や、家庭で実践できることを具体的に示す取組などを継続していくことが必要である。また、実現に向けた取組にかかわる様々な人たちに意見を求め、「目指す子どもの姿」の実現により一層迫る取組にしていくことが大切である。

重点施策 1 「目指す子どもの姿」の共有 調査結果

学校への調査①

「目指す子どもの姿」の実現に向けて、家庭・地域と一緒に取り組んでいるのはどのようなことか。

- 「学習の決まり」「生活の決まり」を全家庭、評議員に配布して家庭や地域とともに推進する。「〇〇小の子 10 か条」や「5 つの〇〇小宣言」などを家庭や地域に知らせ、評価をもらう。
- 地域ぐるみの挨拶運動 挨拶デイ 挨拶ウィーク
- クリーン作戦 資源回収 花ボランティア
- 親子読書 地域の方の読み聞かせボランティア
- 地区運動会 ウォーキングなどのイベント 自然体験や文化体験イベント
(多くの学校で取り組んでいる主だったところや特徴あるところを抜粋)

学校への調査②

「目指す子どもの姿」の実現に向けて、どのような人がかかわりをもっているか。

- 学校評議員 保護者
- 地域ボランティア 学習ボランティア 安全ボランティア 読み聞かせボランティア
- 自治会 老人会 民生委員 協働センターの講座の方 健全育成会 交通安全促進会
- 地域の起業家 地域の商店・会社の人 漁協の方 農家の方
- 浜松市出身の音楽家や落語家などの文化人
(多くの学校から回答があった主だったところを抜粋)

保護者への調査①

お子さんが通学する園・学校の中学校区の「目指す子どもの姿」を知っている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	13.6%(2.7)	57.7%(9.6)	23.5%(5.6)	5.2%(6.7)
幼稚園保護者	17.7%(5.1)	55.3%(11.5)	21.2%(6.9)	5.8%(9.7)
小学校保護者	11.3%(1.7)	57.2%(11.0)	25.9%(5.8)	5.6%(6.9)
中学校保護者	12.8%(1.6)	61.9%(3.9)	21.8%(3.1)	3.5%(2.4)
小中一貫校保護者	21.2%(7.6)	63.6%(6.3)	15.2%(11.2)	0.0%(2.7)

※ () は前年比較値

保護者への調査②

お子さんが通学する学校の中学校区の「目指す子どもの姿」を意識して、家庭でできることを行っている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	8.1%(△ 0.7)	56.5%(9.5)	30.2%(5.1)	5.2%(5.1)
小学校保護者	7.7%(△ 0.7)	55.2%(10.3)	31.5%(5.8)	5.6%(5.2)
中学校保護者	8.3%(0.4)	59.2%(3.7)	27.5%(3.1)	4.4%(1.0)
小中一貫校保護者	9.1%(0.0)	62.1%(2.1)	27.3%(0.0)	1.5%(2.1)

※ () は前年比較値

学校評議員への調査①

ご自身が評議員を務める中学校区での「目指す子どもの姿」を知っているか。

	知っている	知らない
全体	92.7%(0.2)	7.3%(0.2)
小学校評議員	91.7%(1.0)	8.3%(1.0)
中学校評議員	95.0%(1.5)	5.0%(1.5)
小中一貫校評議員	87.5%(12.5)	12.5%(12.5)

※ () は前年比較値

学校評議員への調査②

中学校区では、学校・家庭・地域が、中学校区で「目指す子どもの姿」の実現に向けて、一貫性のある指導をしているか。

	指導している	あまり指導していない	指導していない
全体	81.0%	17.7%	1.3%
小学校評議員	80.7%	18.3%	1.0%
中学校評議員	81.7%	16.7%	1.6%
小中一貫校評議員	87.5%	12.5%	0.0%

※新規の設問

★小中一貫カリキュラムを活用した指導が推進されている

「小中一貫カリキュラム」は、ほぼすべての学校の校内研修等で取り上げられ、小・中学校の学びをつなぐことに活かされている。(学校への調査①②) 教員は、各教科・領域の系統性をもとに、押さえどころを明確にし、手立てを工夫した指導を行っている。(教員への調査①)

しかし、「総合的な学習について、中学校区の小・中学校の学び方や付けたい力のつながりを意識して指導している。」という設問に、全体で 29.7%の教員が、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した。中学校区の小・中学校が、生活科や総合的な学習で同一の地域素材を取り上げている場合が多いので、活動の内容や方法、付けたい力などについて情報を共有し、指導計画を見直しながら、系統性を踏まえた指導を行うことで、学びの質を上げていくことが必要である。

★コミュニケーション能力を高めるために話し合い活動の質を高めていく

多くの学校では、コミュニケーション能力を高めるという意図をもって、子どもたちが様々な年齢や立場の人たちとかかわる活動を学校全体として設けている。(学校への調査③)

また、多くの教員は、授業における話し合い活動は、意図を明確にして取り入れ(教員への調査③)、コミュニケーション能力の育成に努めている。しかし、自分の考えをもった子ども同士が、互いにやりとりすることで、考えを深めたり高めたりするような手立てを十分に講じているとは言えない。(教員への調査)

今後は、発達段階に応じて、何をめざす話し合いなのか、どのような方法で話し合うのかを明確にしたうえで、一人一人の子どもが自分の考えをもち、互いに考えを伝え合う活動を推進することで、コミュニケーション能力の育成を図っていくことが大切である。

★よりよい自分をつくりだす振り返り活動がされている

2 分の 1 成人式、立志式は、振り返りの活動としてどの学校にも根付き、自分の成長を振り返るとともにこれからの目標を明らかにし、よりよい自分をつくりだす活動になっている。また、2 分の 1 成人式に立てた目標を立志式で振り返る活動を行うことで、小・中学校 9 年間の育ちがつながるようにしている。

また、年度の早い段階で、自分の目標をもたせる場を設定している学校がほ

とんどであった。(学校への調査④) 立志式については、昨年度まではほとんどの中学校が2年生の3学期に行っていたが、今年度は1学期に行った中学校が半数以上であった。(学校への調査⑤) 早い段階で目標をもつという点で、効果的である。

今後は、授業等の振り返りで自分のよさや成長にも目を向けさせ、自己肯定感が高まるような振り返りを積み重ねていくことや、普段の振り返りと節目の振り返りをつなぐことで、9年間の子どもの育ちをつなげていくことが大切である。

★地域の人々との学びの中で自分づくりが推進されている

各学校では、各教科や道徳、特別活動などで、目的に沿って地域の外部人材を積極的に活用し、子どもの学びを充実させている。(学校への調査⑥) その結果、「自分の住んでいる町(ふるさと)が好きだ。」と答える子どもは、小・中学生ともに90%を超えている。(子どもへの調査)

重点施策2 各教科・領域の9年間の系統性を踏まえた指導の充実 調査結果

幼稚園への調査

卒園時や節目となる機会に自己を振り返る場を設定し、その充実を図っているか。

	設定している	学年や教師個人に任せている
全体	96.8%	3.2%

※昨年度は「かなり図っている」27.0%、「図っている」71.4%、「あまり図っていない」1.6%、「図っていない」0.0%であった

学校への調査①

小中一貫カリキュラムで系統性を押さえる意味について、校内研修で取り上げて話し合っているか。

	話し合っている	話し合っているとは言えない
全体	95.3%	4.7%
小学校	96.1%	3.9%
中学校	93.6%	6.4%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査②

小中一貫カリキュラムを使って発達段階に応じた指導の在り方について話し合い、小・中学校の学び方をつないでいるか。

	つないでいる	つないでいるとは言えない
全体	95.3%	4.7%
小学校	96.1%	3.9%
中学校	93.6%	6.4%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査③

コミュニケーション能力を高めるという意図をもって、異学年や外部人材とかかわる活動を設けているか。

	学校全体として設けている	学年や教師個人に任せている	設けていない
全体	80.7%	18.0%	1.3%
小学校	83.3%	16.7%	0.0%
中学校	74.5%	21.3%	4.3%
小中一貫校	100.0%	0.0%	0.0%

※ 新規の設問

学校への調査④

年度の早い段階で、自分の目標をもたせる場を設定しているか。

	設定している	学年や教師個人に任せている	設定していない
全体	83.3%	16.0%	0.7%
小学校	82.4%	16.7%	0.0%
中学校	85.1%	14.9%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査⑤

2分の1成人式、立志式の実施時期と内容

【2分の1成人式】

時期 小学校4年生の10月が1校、12月が1校、2月の学校がほとんどである。

- 内容
- ・10年を振り返り、親への感謝の手紙を書いて、親に渡す。
 - ・自分の得意なことや夢や希望、誓いの言葉を発表する。参観会で保護者の前で発表する。
 - ・親を招いて2分の1成人式を行う。校長先生の話の聞いたり、子どもが誓いの言葉を発表したりする。
 - ・初等部の修了式の中で行う。(小中一貫校)

(多くの学校から回答があった主だったところや特徴あるところを抜粋)

【立志式】

時期 中学校2年生の4月が5校、5月が8校、6月が6校、7月が4校、2学期は3校、他は3学期に行っている。

- 内容
- ・立志の誓いを立て発表する。
 - ・校長先生や企業家や地域で活躍している方の立志にかかわる講話を聞く。
 - ・中等部修了式の中で行う。(小中一貫校)

(多くの学校から回答があった主だったところや特徴あるところを抜粋)

学校への調査⑥

目的に沿って外部人材を積極的に活用し、子どもの学びが充実するよう、学校として努めているか。

	努めている	努めているとは言えない
全体	97.3%	2.7%
小学校	99.0%	1.0%
中学校	93.6%	6.4%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

教員への調査①

各教科・領域の系統性をもとに、押さえどころを明確にし、手立てを工夫した指導をしている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	24.4%	70.4%	5.0%	0.2%
小学校教員	24.7%	70.9%	4.3%	0.1%
中学校教員	23.8%	69.3%	6.7%	0.2%
小中一貫校教員	26.3%	73.7%	0.0%	0.0%

※新規の設問

教員への調査②

総合的な学習について、中学校区の小・中学校の学び方や付けたい力のつながりを意識して指導している。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	16.9%	53.4%	28.4%	1.3%
小学校教員	17.7%	55.7%	25.7%	0.9%
中学校教員	14.0%	48.9%	34.7%	2.4%
小中一貫校教員	63.2%	31.6%	5.3%	0.0%

※新規の設問

教員への調査③

授業における話し合い活動は、意図を明確にして取り入れている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	33.5%	58.9%	7.5%	0.1%
小学校教員	37.3%	57.7%	5.0%	0.0%
中学校教員	25.7%	61.0%	12.9%	0.4%
小中一貫校教員	15.8%	84.2%	0.0%	0.0%

※新規の設問

教員への調査④

話し合い活動では、自分の考えをもった子ども同士が、双方向のやりとりを通して考えを深めたり高めたりするような手立てを講じている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	21.8%	58.9%	18.9%	0.4%
小学校教員	25.4%	59.6%	14.8%	0.2%
中学校教員	13.7%	57.5%	28.0%	0.8%
小中一貫校教員	36.8%	57.9%	5.3%	0.0%

※新規の設問

教員への調査⑤

振り返りをする際には、自分のよさや成長に目を向け、自己肯定感が高まるような手立てを講じている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	23.3%	61.9%	14.5%	0.3%
小学校教員	24.0%	62.4%	13.5%	0.1%
中学校教員	21.7%	61.2%	16.5%	0.6%
小中一貫校教員	23.3%	61.9%	14.5%	0.3%

※新規の設問

教員への調査⑥

授業では、分かったことだけでなく、分からないことも問い、分からない子どもに対して応える手立てを講じている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	32.9%	58.7%	8.2%	0.2%
小学校教員	37.2%	57.2%	5.5%	0.1%
中学校教員	24.0%	61.5%	14.2%	0.3%
小中一貫校教員	21.1%	78.9%	0.0%	0.0%

※新規の設問

子どもへの調査

【全学年共通】私は自分の住んでいる町（ふるさと）が好きだ。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	74.5%(0.6)	19.0%(0.1)	4.6%(0.5)	1.9%(0.2)
小学校低学年	81.8%(0.1)	13.0%(0.0)	3.4%(0.1)	1.8%(0.0)
小学校高学年	73.8%(0.5)	20.2%(0.1)	4.4%(0.5)	1.6%(0.1)
中学生	72.0%(0.4)	21.1%(0.1)	4.8%(0.6)	2.1%(0.1)

★「心の耕し」が保護者や地域とともに推進されている

「中学校区人づくり教育推進事業」は、幼稚園、小・中学校の教員が合同研修会をもち、教科や道徳の授業研究を行い、中学校区の実態や課題を把握し、幼稚園・小・中学校の連続性を踏まえて、家庭や地域とともに、豊かな心を育む活動にねらいをもって取り組んでいる。このような取組の結果、学校と保護者・地域が互いを理解し信頼するというよい関係ができています。大人たちのよい関係の中で、「心の耕し」が推進され、子どもは、「目指す子どもの姿」に向けて成長している。

今年度は、「中学校区人づくり教育推進事業」の中に、「家庭や地域社会と共に『いじめ』を根絶するための活動」を位置づけ、地域ぐるみで、いじめ根絶に向けた取組も推進された。

★学校と家庭が協力をして「はままつマナー」の内容の定着を図る

各学校では、これまで、道徳の授業や朝の会・帰りの会の指導で、「はままつマナー」を活用するなどして、活用の日常化を図ってきた。今年度新設した「内容について、日常的に指導している。」という設問に、全体で 79.2%の教員が、「そう思う」「大体そう思う」と回答した。(教員への調査③)

また、これまで、参観会の授業で「はままつマナー」を使用した授業を行ったり、保護者会で話題にしたりし、保護者への啓発を図ってきた。その結果、内容が身に付くように、家庭でも実践するよう心がけている保護者が増えてきている。(保護者への調査①)

教員と保護者が一体となった指導で、「はままつマナー」に書いてあることを実践しようとしている子どもが、全体で増加している。(子どもへの調査①) また、内容が浸透してきていると感じている教員も増加している。(教員への調査①)

一方で、「はままつマナー」に関して小学校と中学校に若干の意識の違いが見られた。(学校への調査③、教員への調査②③) 小学生用の「はままつマナー」は副教材として活用しているが、中学生用は人として身に付けるべき内容が中心となっており、日常的な活用が課題と考えられる。

「はままつマナー」は、人づくりを発達段階に応じて日常的に進めていくための指針であることを再認識し、日常の指導の中で内容のさらなる実践を図るように指導することが大切である。また、保護者が手本を示すなど、家庭でも内容が身に付くよう実践できる手立てを講じていく必要がある。

学校への調査①

「中学校区人づくり教育推進事業」について、家庭や地域の理解を得て、連携して取り組むために、どのような工夫をしたか。

- 学校だよりや中学校区だより「学区」、ホームページを通して、活動の様子を保護者や地域に知らせた。
- 横断幕やのぼりをつくって地域にアピールした。
- 2分の1成人式、立志式に保護者や地域の方にも参加してもらったり、保護者に手紙を書いてもらったりするなどしてかわりをもってもらった。
- パパママ体験などのボランティアを地域から募っている。
- 保護者や地域の方に講師をお願いし、体験イベントや文化活動を行っている。
- 小中合同の挨拶運動や奉仕作業、資源物回収を行う。
- 地域の専門家を講師に、凧揚げや陶芸、地域の伝統芸能の体験活動を行っている。
- いじめ撲滅の標語を小中合同で募集した。いじめゼロ運動や会議を小中合同で行った。

(多くの学校で取り組んでいることや特色あるところを抜粋)

学校への調査②

「中学校区人づくり教育推進事業」の取り組みは、中学校区でどのようなよさになって表われているか。
(子どもの姿、教師の姿、地域の様子、保護者の様子)

子どもの姿

- 挨拶ができる子どもが多くなった。
- 「いじめ」を自分たちの問題としてとらえられるようになった。
- 小学生が、中学校への入学の期待を膨らませることができている。
- 小学校で共通の地域体験活動をしたことで、中学校に入学した時に人間関係づくりの一助となった。
- 夢をもつことの大切さや目標に向かって努力することの重要性を理解できるようになった。
- 小学生は中学生を、中学生は地域の大人を手本に、近い将来の自分の目標を明確にすることができた。

(多くの学校から回答があった主だったところを抜粋)

教師の姿

- 小・中学校の教員の意思疎通が図られるようになった。生徒指導や学習指導で、共通理解、連携がとれている。
- 9年間で子どもを育てるという意識が定着してきた。

(多くの学校から回答があった主だったところを抜粋)

地域の姿・保護者の姿

- 保護者や地域は学校や子どもの様子が分かり、教員は地域の様子が分かり、互いの安心感につながっている。
- 挨拶運動や見守り隊に協力する方が増えてきた。
- 保護者は、自分の子どもの成長を確かめる場面が増え、健全な成長を願う親としての思いを再認識している。
- 地域で子どもを育てるという意識が強くなった。

(多くの学校から回答があった主だったところを抜粋)

学校への調査③

学校全体で「はままつマナー」の意義を踏まえた指導の方向性について、共通認識をもっているか。

	全員がもっている	全員がもっているとは言えない	もっていない
全体	86.0%	12.7%	1.3%
小学校	95.1%	4.9%	0.0%
中学校	66.0%	29.8%	4.3%
小中一貫校	100.0%	0.0%	0.0%

※新規の設問

教員への調査①

「はままつマナー」の内容が子どもに浸透していると感じる。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	11.8%(4.6)	53.1%(3.8)	33.5%(6.0)	1.6%(2.4)
小学校教員	13.8%(5.7)	57.4%(1.8)	28.1%(5.9)	0.7%(1.6)
中学校教員	6.9%(1.8)	43.8%(8.4)	45.9%(5.8)	3.4%(4.4)
小中一貫校教員	47.4%(37.9)	47.4%(14.5)	5.3%(23.3)	0.0%(0.0)

※ () は前年比較値

教員への調査②

「はままつマナー」の内容を踏まえ、その良さを子どもが生活の中で実感しながら身に付けるような工夫をしている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	15.5%	54.4%	27.7%	2.4%
小学校教員	18.4%	57.7%	21.5%	2.4%
中学校教員	9.6%	47.6%	40.6%	2.2%
小中一貫校教員	5.3%	47.4%	42.1%	5.3%

※ 新規の設問

教員への調査③

「はままつマナー」の内容について、日常的に指導している。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	28.3%	50.9%	19.6%	1.2%
小学校教員	33.6%	51.4%	14.5%	0.5%
中学校教員	17.0%	49.5%	30.7%	2.8%
小中一貫校教員	26.3%	68.4%	5.3%	0.0%

※新規の設問

保護者への調査①

「はままつマナー」の内容が身に付くように、家庭でも実践するように心がけている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	12.2%(1.7)	61.5%(7.1)	23.3%(6.4)	3.0%(2.4)
小学校保護者	13.0%(2.0)	62.2%(7.3)	22.0%(6.7)	2.8%(2.6)
中学校保護者	10.4%(1.2)	59.9%(6.7)	26.1%(6.0)	3.6%(1.9)
小中一貫校保護者	10.6%(3.0)	63.6%(1.9)	22.7%(3.6)	3.0%(1.2)

※ () は前年比較値

保護者への調査②

「はままつマナー」の内容は、お子さんの身に付いている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	6.2%	59.6%	31.0%	3.2%
小学校保護者	5.9%	60.0%	31.2%	2.9%
中学校保護者	6.9%	58.6%	30.7%	3.8%
小中一貫校保護者	3.0%	66.6%	28.8%	1.5%

※新規の設問

保護者への調査③

「はままつマナー」に書いてあることは、親が手本を示そうと努めている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	12.9%	62.7%	21.4%	3.0%
小学校保護者	13.5%	63.3%	20.5%	2.7%
中学校保護者	11.8%	61.4%	23.3%	3.5%
小中一貫校保護者	13.6%	65.2%	19.7%	1.5%

※新規の設問

子どもへの調査

【全学年共通】私は「はままつマナー」に書いてあることをやろうとしている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	33.3%(4.1)	42.4%(1.1)	19.0%(3.3)	5.3%(1.9)
小学校低学年	49.9%(5.4)	35.1%(3.7)	11.0%(1.7)	4.0%(0.0)
小学校高学年	26.1%(6.9)	45.6%(2.1)	21.5%(4.3)	6.8%(0.5)
中学生	11.4%(1.8)	46.9%(1.0)	32.2%(1.8)	9.5%(1.0)

※ () は前年比較値

★幼稚園から保護者への働きかけを工夫していく

各幼稚園では、「幼児期に育てたい力」の中で重点項目を決め、ポイントを絞った取組に努めてきた。昨年度各幼稚園に配布された「幼児期に付けたい力」の指導資料を活用して、指導計画に位置付け、ねらいを押さえた指導を行っている。また、園だよりなどを通して、幼稚園や学年として力を入れたい重点項目を保護者に示し、幼稚園と家庭が連携して子どもを育てることに努めている。また、個人面談などで、保護者とともに子どもの成長の状況を確認するよう努めている。

幼稚園の努力により、「幼児期に育てたい力～すくすく育て はままつっ子～」を子育てに生かしている保護者は年々増加している。しかし、「『すくすく育て はままつっ子』を子育てに生かしている。」という設問に、32.2%の保護者が「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答している。（保護者への調査①）今後は、より一層保護者への啓発の仕方を工夫し、一人一人の子どもに基礎的・基本的な力を育んでいくことが必要である。

★幼稚園と小学校の交流は子どもの成長につながっている

小学校へのなめらかな接続を見据えた指導は、すべての幼稚園で行われており、「小学校生活に慣れる」「小学校へのあこがれや期待を持つ」という意識は大変高い。（幼稚園への調査）また、ほぼ全小学校で、幼稚園での取組や育ちを踏まえた指導を行っており（学校への調査）、幼稚園と小学校の双方向の接続になってきた。

幼稚園・小学校の交流は、なめらかな接続だけでなく、園児、児童双方の思いやりの心を育てたり、園児の生活や遊びの質を高めたりするなど、子ども自身の成長につながっている。

幼稚園への調査①

小学校とのなめらかな接続を見据えた指導をしているか。

	見据えた指導をしている	指導をしているとは言えない
幼稚園	100.0%	0.0%

※新規の設問

幼稚園への調査②

幼児と児童の交流でどのようなよさが見られたか。

幼児

- 就学への期待が膨らみ、小学校が身近な存在になっている。
- 様々な人たちとかかわることのきっかけづくりになっている。
- 優しくしてもらったり世話をしてもらったりする心地よさを覚え、それが下の学年の子どもへの思いやりある言動につながっている。
- 小学生から受けた刺激を、自分たちなりに取り込んで、生活や遊びに活かしたり、下の学年の子どもに教えたりしている。

(多くの園から回答があった主だったところを抜粋)

児童

- 思いやりの心を育てている。
- 交流の回を重ねるたびに、積極的に優しくなっている。

(多くの園から回答があった主だったところを抜粋)

教員

- 小学生の姿から先を見通しながら、幼稚園で身に付けなければいけない力を明確にできた。

(多くの園から回答があった主だったところを抜粋)

学校への調査

【小学校のみへの設問】幼稚園での取組や育ちを踏まえて小学校生活をスタートさせているか。

	踏まえてスタートさせている	スタートさせているとは言えない
小学校	98.1%	1.9%

※新規の設問

保護者への調査

「すくすく育て はままつっ子」を子育てに生かしている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
幼稚園保護者	12.2%(0.3)	55.6%(1.9)	28.3%(1.2)	3.9%(1.0)

※ () は前年比較値

検証Ⅲ 基本計画の取組状況

- 基本計画 1 確かな学力を育成します
- 基本計画 2 豊かな心をはぐくみます
- 基本計画 3 健やかな体をはぐくみます
- 基本計画 4 ニーズに応じた子ども支援をします
- 基本計画 5 魅力ある先生を育てます
- 基本計画 6 よりよい教育環境づくりを進めます
- 基本計画 7 家庭や地域との連携を強化します

基本計画 1 確かな学力を育成します 考察

重点施策 2 「各教科・領域の 9 年間の系統性を踏まえた指導の充実」の考察で述べたように、各学校では、小中一貫カリキュラムを活用し、9 年間の系統性を踏まえ、発達段階に応じた指導に取り組んでいる。また、一人一人の教員は、自分の授業力向上のために、校内研修に前向きに取り組んでおり、特に理科の授業では、実験・観察を充実させ、学ぶ面白さを味わうことができる授業づくりに取り組んでいる。本年度の浜松市指定教育研究の内容は「確かな学力を育む学習指導」であり(雄踏小については「すこやかな子どもの育成」)、指定の学校の教員を中心に全市の教員が、確かな学力を育成するために熱心に研究協議を行った。これらの取組の結果、「授業の内容が分かる」と回答する子どもが、小学校ではわずかながら増加した。

しかし、「思考力や表現力を育てる言語活動の目的を押さえ、意図的に取り入れているか」という質問に、「そう思う」と答えた教員は全体で 28.9%、「大体そう思う」が 60.5%であった。確かな学力を育成するために、話し合い活動を含めた言語活動を目的、意図、場面や状況に応じて適切に位置づけていくことが必要である。また、「発達段階に応じた授業ガイダンスを行うことで、子どもが見通しをもって意欲的に学習に取り組めるようにしているか。」という質問に、「学校全体で講じている」と答えた学校は全体で 60.7%であった。特に、小学校では 44.1%であったため、小学校から、教科や単元の授業ガイダンスで、何のために学ぶのか、どのように学ぶのか、何がわかりできるようになるのかを明確にし、子どもたちの学習意欲を向上させていくことが大切である。

また、平成 25 年 4 月に行われた全国学力・学習状況調査では、本市の 6 年生の国語 A (知識に関する問題) は全国平均を下回った。その結果を受け、12 月に、浜松市教育委員会から「学力向上 やらまいかプラン」を提示し、授業改

善、指導力向上、家庭学習・自主学習の改善などについての具体策を示した。各学校では、自校の全国学力・学習状況調査や浜松市学習内容定着度調査の結果を分析し、自校の子どもに確かな学力を育成するために、PDCA のサイクルを確立していく必要がある。

基本計画 1 確かな学力を育成します 調査結果

《施策 1:各教科・領域の 9 年間の系統性を踏まえた指導の充実》

重点施策のため検証Ⅱに前掲

《施策 2: 保育・授業の充実》

学校への調査①

各種研究機関やNPO、企業などとの連携を図り、社会の変化に対応できる子どもの育成に努めているか。

	努めている	努めていない
全体	81.3%	18.7%
小学校	80.4%	19.6%
中学校	83.0%	17.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査②

定着度調査の結果を指導の充実に活かしているか。

	活かしている	少しは活かしている	活かしていない
全体	83.3%	16.7%	0.0%
小学校	89.2%	10.8%	0.0%
中学校	70.2%	29.8%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%	0.0%

※新規の設問

教員への調査①

自分の授業力向上のために、校内研修に前向きに取り組んでいる。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	44.7%	49.8%	5.3%	0.2%
小学校教員	49.7%	46.7%	3.5%	0.1%
中学校教員	33.3%	56.8%	9.5%	0.4%
小中一貫校教員	57.9%	42.1%	0.0%	0.0%

※新規の設問

教員への調査②

算数・数学の授業は日常生活と関連付け、分かる喜びのある授業になっている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	36.8%	54.9%	8.2%	0.1%
小学校教員	34.3%	59.0%	6.6%	0.1%
中学校教員	42.5%	45.7%	11.7%	0.1%
小中一貫校教員	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%

※新規の設問

教員への調査③

理科の授業は実験・観察を充実させ、学ぶ面白さを味わわせている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	50.0%	45.4%	4.5%	0.1%
小学校教員	47.4%	46.8%	5.6%	0.2%
中学校教員	56.3%	41.4%	2.3%	0.0%
小中一貫校教員	20.0%	80.0%	0.0%	0.0%

※新規の設問

教員への調査④

思考力や表現力等を育てる言語活動の目的を押さえ、意図的に取り入れている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	28.9%	60.5%	10.3%	0.3%
小学校教員	30.4%	60.8%	8.6%	0.2%
中学校教員	25.5%	59.8%	14.3%	0.4%
小中一貫校教員	36.8%	63.2%	0.0%	0.0%

※新規の設問

教員への調査⑤

互いの意見を受容する学級の雰囲気を作ることに努めている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	48.9%	48.8%	2.2%	0.1%
小学校教員	54.3%	44.1%	1.5%	0.1%
中学校教員	37.1%	59.0%	3.8%	0.1%
小中一貫校教員	63.2%	36.8%	0.0%	0.0%

※新規の設問

教育委員会事務局への調査

平成 24 年度・平成 25 年度浜松市指定教育研究校

学校	研究主題
雄踏小	すこやか心と体をもつ子ども ～達成感を味わわせ、自己肯定感を高める～
金指小	わかる楽しい授業の実現
中郡中	「感動」と「挑戦」のある授業の創造 ～学びを楽しむ生徒を育成するために～
湖東中	互いに学び、高め合う生徒の育成 ～「人・もの・こと」にかかわる実践を基盤として～

平成 25 年度・平成 26 年度浜松市指定教育研究校

学校	研究主題
鴨江小	主体的に学び続ける子どもの育成 ～学びの原動力を引き出す仕掛けの工夫～
三方原小	自分の思いや考えをもち、共に高め合う子の育成 ～分かる喜び・できた成就感を味わわせる授業改善～
浜名中	言語活動の充実を図り、自分の考えや思いを表現できる生徒の育成 ～生徒が主体的に取り組む授業を目指して～
神久呂中	成長を実感できる授業の創造 ～自己との対話・他者との対話を通して～

《施策 3：基礎・基本の定着》

学校への調査

【小学校のみ】高学年で教科担任制を行っているか。（行っている教科を選択）

国語	算数	社会	理科	音楽
4.9%	1.9%	49.5%	67.0%	88.3%
体育	図工	家庭	外国語活動	総合的な学習
60.2%	52.4%	71.8%	5.8%	2.9%

教育委員会事務局への調査①

指導法工夫改善（少人数指導や複数教員指導）実施の教科の内訳

【小学校】

算数	総合的な学習	国語
50校	8校	4校

【中学校】

総合的な学習	数学	英語
19校	13校	10校

教育委員会事務局への調査②

支援員、補助員の配置数（平成25年4月時点）

種別	人数
学習指導支援員	110人
ALT	47人
理科支援員	54人
キッズサポーター	144人
スクールヘルパー	73人

《施策4：学習意欲の向上と学習習慣の確立》

学校への調査①

発達段階に応じた授業ガイダンスを行うことで、子どもが見通しをもって意欲的に学習に取り組めるようにしているか。

	学校全体で講じている	一部の学年や教科で講じている	講じていない
全体	60.7%	36.7%	2.7%
小学校	44.1%	52.0%	3.9%
中学校	95.0%	4.3%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%	0.0%

※ 新規の設問

学校への調査②

評価の観点を子どもに公開して、子どもに学習のねらいが分かるようにしているか。

	学校全体で講じている	一部の学年や教科で講じている	講じていない
全体	62.0%	28.0%	10.0%
小学校	51.0%	34.3%	14.7%
中学校	87.2%	12.8%	0.0%
小中一貫校	0.0%	100.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査③

家庭学習の意義や方法について、保護者や子どもに分かるように伝える手段を講じているか。

	学校全体で講じている	一部の学年や教科で講じている	講じていない
全体	78.0%	20.7%	1.3%
小学校	78.4%	19.6%	2.0%
中学校	76.6%	23.4%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%	0.0%

※新規の設問

基本計画 2 豊かな心をはぐくみます 考察

すべての学校で、子どもの思いや願いを理解するための具体的な手立てをもち、全校体制で子どもの置かれた状況について話し合い、子どもへの理解を推進している。また、教員は、一人一人の子どもを大切に、温かいコミュニケーションや人間関係づくりに努めている。

さらに、地域の企業やPTAと連携を図り、地域での職場体験などのキャリア教育を発達段階に応じて行うことで、コミュニケーション能力を育成したり、将来への夢や希望を育んだりするよう努力・工夫している。

基本計画 2 豊かな心をはぐくみます 調査結果

《施策 1：「目指す子どもの姿」の共有》

《施策 2：各教科・領域の 9 年間の系統性を踏まえた指導の充実》

《施策 3：はままつ人づくり教育事業への取組》

《施策 4：「浜松市幼児教育振興アクションプログラム」の推進》

以上は重点施策のため検証Ⅱに前掲

《施策 5：道徳教育の充実》

学校への調査①

道徳の資料や授業展開を工夫し、授業を軸にして子どもの道徳性が高まるように学校として努めているか。

	学校全体で工夫している	学年や教師個人に任せて工夫している	工夫していない
全体	73.3%	26.7%	0.0%
小学校	76.5%	23.5%	0.0%
中学校	66.0%	34.0%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査②

互いの人格を尊重し合い、いじめを見逃さないということを、全職員が共通認識をもって子どもに指導しているか。

	全員が共通認識をもっている	全員がもっているとは言えない
全体	99.3%	0.7%
小学校	100.0%	0.0%
中学校	97.9%	2.1%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査③

体験活動を通して子どもに学級・学校への所属感が育まれるように、一人一人の存在を大切にされた指導をしているか。

	一人一人を大切にしている	大切にしているとは言えない
全体	100.0%	0.0%
小学校	100.0%	0.0%
中学校	100.0%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

教員への調査

一人一人の子どもを大切に、温かいコミュニケーションづくりに努めている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	55.7%	42.9%	1.4%	0.0%
小学校教員	59.1%	39.8%	1.0%	0.1%
中学校教員	47.7%	49.8%	2.5%	0.0%
小中一貫校教員	78.9%	21.1%	0.0%	0.0%

※新規の設問

《施策6：生徒指導の充実》

学校への調査①

子どもの思いや願いを理解するために、具体的な手立てをもっているか。

	もっている	もっていないとは言えない
全体	100.0%	0.0%
小学校	100.0%	0.0%
中学校	100.0%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査②

校内生徒指導体制を明確にし、チームで子どもの情報を共有し、子どもの置かれた状況について話し合っているか。

	話し合っている	話し合っていないとは言えない
全体	100.0%	0.0%
小学校	100.0%	0.0%
中学校	100.0%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査③

「わたしは学校が好きだ」という問いに「いいえ」と答えた子どもに対して、どのような手立てをとったか。

- 給食のときにグループに入ったり、休み時間や放課後の時間を利用したり、子どもに声をかける努力をしている。
- 担任が子どもの思いを聞き取り、それに対する対応をした。
- 多くの教員から情報を集め、状況と対応の共通理解を図り、対応した。
- 授業や行事などを工夫し、楽しい学校・学級づくりを目指した。
- 行事を通して仲間づくりを進めた。
- 子どもの良さを認め、賞揚する機会を意図的に設けた。
- 人間関係づくりプログラムを行った。
- QU アンケートやピアサポート等の実践で、子どもに寄り添った指導をした。
- 普段の様子をよく見たり、声掛けをしたりして、子どもの心に寄り添う指導に努めた。
- 分かる授業と所属感が感じられる行事で、学校が好きになるよう努力した。

(主だった回答を抜粋)

教員への調査

愛情を注いで子どもを理解し、温かい人間関係を築こうとしている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	61.7%	37.4%	0.9%	0.0%
小学校教員	65.4%	34.1%	0.5%	0.0%
中学校教員	52.9%	45.1%	2.0%	0.0%
小中一貫校教員	89.5%	10.5%	0.0%	0.0%

※新規の設問

《施策7：キャリア教育の推進》

学校への調査①

発達段階に応じたキャリア教育を行い、子どもが夢を育む機会としているか。

	夢を育む機会にしている	機会にしているとは言えない
全体	90.7%	9.3%
小学校	87.3%	12.7%
中学校	97.9%	2.1%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査②

【中学校のみ】地域の企業やPTAと連携して職場体験の充実を図っているか。

	充実を図っている	図っているとは言えない
中学校	97.9%	2.1%

※新規の設問

《施策 8 : 文化活動や読書活動の推進》

学校への調査

学校図書館補助員は読書への関心を高め、読書量が増えるように、環境整備をしているか。

	している	しているとは言えない
全体	99.3%	0.7%
小学校	100.0%	0.0%
中学校	97.9%	2.1%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

教育委員会事務局への調査①

学校教育における文化活動への支援

アクトシティ浜松大ホール・中ホール、浜北文化センター、雄踏文化センター等を使用し、音楽発表会を開催している。音響効果の良い会場で、自分たちの演奏を発表する機会を設け、音楽教育の一層の充実を図っている。全ての浜松市立の中学校が、3年に1回実施できる。

【平成 25 年度の実施校】

江西中 浜松北部中 富塚中 丸塚中 東陽中 北星中 篠原中
舞阪中 天竜中 籠玉中 湖東中 曳馬中 庄内中 神久呂中
水窪中 三ヶ日中

教育委員会事務局への調査②

地域の伝統芸能継承への支援

小学生・中学生が保存会の活動に参加している伝統芸能

- ・ 滝沢放歌踊り
- ・ 懐山おくない
- ・ 寺野ひよんどり
- ・ 川合花の舞
- ・ 川名ひよんどり
- ・ 西浦田楽
- ・ 横尾歌舞伎

教育委員会事務局への調査③

「朝の読書」などの一斉読書の時間の設定

	毎日	週に複数回	週に1回	その他
小学校	31.7%	59.6%	5.8%	2.9%
中学校	77.4%	19.4%	0.0%	3.2%

基本計画 3 健やかな体をはぐくみます 考察

各園・学校では、保健、安全、食育などの指導について、教育活動全体を通して、子どもの実態や発達段階を考慮し、意図的・計画的に進めることで、健やかな体を育む取組を充実させている。

また、周りの人たちとのよりよいコミュニケーションづくりやストレス解消の方法などについても学ぶ機会をつくり、心の健康も育てている。今後も保護者と連携し、継続的な指導を続けることで、心身ともに健やかな人づくりを推進していくことが大切である。

基本計画 3 健やかな体をはぐくみます 調査結果

《施策 1：健康教育の推進》

子どもへの調査・保護者への調査

(幼稚園保護者への設問) お子さんは夜 9 時までには寝ている。

(小学校児童への設問) 私は夜 10 時までには寝ている。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
幼稚園保護者	54.7%(4.7)	31.3%(1.6)	11.3%(2.6)	2.7%(0.5)
小学生	55.6%(0.4)	25.5%(0.7)	10.8%(0.2)	8.1%(0.1)

※ () は前年比較値

教育委員会事務局への調査①

学校保健委員会の内容

内容	小学校	中学校	テーマの具体例
生活習慣	15 校	3 校	早寝・早起き・朝ごはん、健康な生活
コミュニケーション	19 校	6 校	よりよく人とかかわろう、心地よいコミュニケーションスキル
心身の健康	40 校	16 校	歯の健康、すっきり悩み解決
安全・防災	5 校	4 校	けがを防いで安全な生活、応急措置と心肺蘇生
いのち・性	21 校	16 校	いのちのはじまり、あなたも私も大切に

教育委員会事務局への調査②

朝ごはんを食べている子どもの割合

	割合
幼稚園児	99.1%(▼0.3)
小学生	98.5%(▼0.2)
中学生	96.7%(0.1)

※ () は前年比較値

教育委員会事務局への調査③

新体力テストの市平均が全国平均を上回る種目の割合

	割合
小学生	81.3%(▼6.2)
中学生	87.5%(10.4)
高校生	93.8%(0.0)

※ () は前年比較値

《施策2：体力の向上》

学校への調査①

教育活動全体を通して、健康への理解を深め、運動が好きで積極的に運動に親しむ子どもの育成に向けて工夫しているか。

	工夫している	工夫しているとは言えない
全体	98.0%	2.0%
小学校	100.0%	0.0%
中学校	93.6%	6.4%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査②

体力テストの結果を踏まえた指導の工夫をしているか。

	工夫している	工夫しているとは言えない
全体	97.3%	2.7%
小学校	98.0%	2.0%
中学校	95.7%	4.3%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

子どもへの調査

【全学年共通】私は運動が好きだ。

	そう思う	大体そう思う	あまりそう思わない	そう思わない
全体	62.8%(0.0)	23.3%(2.1)	10.4%(0.3)	3.5%(1.8)
小学校低学年	70.6%(3.4)	18.4%(2.1)	6.9%(0.7)	4.1%(0.6)
小学校高学年	59.0%(3.4)	23.5%(0.3)	11.3%(2.9)	6.2%(0.2)
中学生	47.1%(0.2)	29.5%(0.6)	17.6%(1.3)	5.8%(1.7)

※ () は前年比較値

基本計画 4 ニーズに応じた子ども支援をします 考察

各園・学校では、様々な悩みや課題を抱える子どもやその保護者への支援を全園・全校体制で進めるとともに、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、教育相談支援センターなどの関係機関と積極的に連絡を取り、その解決に努力している。

支援を必要とする子どもについては、保護者と学校とが時間をかけて話し合っている。発達支援学級への入級が望ましい子どもは増加傾向にあるため、今後も、発達支援学級の整備も含め、個々に応じた支援を充実させることが必要である。

外国籍の児童・生徒への支援についても、就学にかかわることから就学後の学校生活への適応まで、保護者も含めてニーズに応じた支援を行っている。

基本計画 4 ニーズに応じた子ども支援をします 調査結果

《施策 1：教育相談の充実》

幼稚園・学校への調査①

子どもや保護者が必要に応じて相談できる体制づくりをしているか。

	している	しているとは言えない
全体	100.0%	0.0%
幼稚園	100.0%	0.0%
小学校	100.0%	0.0%
中学校	100.0%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

幼稚園・学校へ調査②

スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーと連携し、保護者や子どもの悩みを受け止める環境づくりに努めているか。

	努めている	努めているとは言えない
全体	90.1%	9.9%
幼稚園	68.7%	31.3%
小学校	99.0%	1.0%
中学校	100.0%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※ 新規の設問

教育委員会事務局への調査

教育相談充実のための、教育相談支援センターとしての手立てや工夫

- いじめ子どもホットラインを24時間体制に拡充
- 複雑多岐にわたる相談に対応するために、スーパーバイザーとして心理専門員を配置
- 各区社会福祉課家庭児童相談室との連携を強化

《施策2：不登校の子どもへの支援》

幼稚園・学校への調査①

不登園・不登校の子どもや保護者への支援を、全園・全校体制で行っているか。

	全園・全校体制で行っている	全園・全校体制で行っていない
全体	98.1%(0.4)	1.9%(0.4)
幼稚園	98.4%(1.6)	1.6%(1.6)
小学校	99.0%(1.0)	1.0%(1.0)
中学校	95.7%(2.1)	4.3%(2.1)
小中一貫校	100.0%(0.0)	0.0%(0.0)

※ () は前年比較値

幼稚園・学校への調査②

不登園・不登校の子どもや保護者への支援のために、自園・自校で工夫しているか。

	工夫している	工夫しているとは言えない
全体	98.1%	1.9%
幼稚園	98.4%	1.6%
小学校	99.0%	1.0%
中学校	95.7%	4.3%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

《施策3：障がいのある子どもへの支援》

幼稚園・学校への調査①

発達支援コーディネーター等を中心に、全園・全校体制で障がいのある子どもの支援を行っているか。

	全園・全校体制で行っている	全園・全校体制とは言えない
全体	97.7%(0.9)	2.3%(0.9)
幼稚園	100.0%(0.0)	0.0%(0.0)
小学校	98.0%(2.0)	2.0%(2.0)
中学校	93.6%(0.0)	6.4%(0.0)
小中一貫校	100.0%(0.0)	0.0%(0.0)

※ () は前年比較値

幼稚園・学校への調査②

支援が必要な子どもの支援計画を個別に作成しているか。

	個別に作成している	個別には作成していない
全体	97.7%(2.3)	2.3%(2.3)
幼稚園	92.1%(7.9)	7.9%(7.9)
小学校	100.0%(0.0)	0.0%(0.0)
中学校	100.0%(0.0)	0.0%(0.0)
小中一貫校	100.0%(0.0)	0.0%(0.0)

※ () は前年比較値

幼稚園・学校への調査③

子どもにとってより良い教育環境を第一に考えて、発達支援学級や特別支援学校への入級・入学を支援しているか。

	支援している	支援しているとは言えない
全体	98.1%	1.9%
幼稚園	93.7%	6.3%
小学校	100.0%	0.0%
中学校	100.0%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

教育委員会事務局への調査

平成 25 年度新たに開設した発達支援学級

	新設した発達支援学級
小学校	上島小学校(知的)、芳川小学校(知的)、曳馬小学校(自閉症・情緒)、葵が丘小学校(自閉症・情緒)、和田東小学校(自閉症・情緒)、追分小学校(肢体)
中学校	西部中学校(知的)

《施策 4：外国人への子どもへの支援》

教育委員会事務局への調査

教育相談支援センターに寄せられた外国人児童・生徒に関する相談件数

編転入時相談	就学相談	進路相談	学校生活適応相談	帰国・出国相談	その他
33 件	4 件	1 件	33 件	5 件	69 件

(平成 25 年 4 月～平成 25 年 9 月)

※ 編転入時相談：学区、転編入学の手続き、日本の学校に関すること

※ 就学相談：発達相談、発達支援に関すること

※ その他：就学援助、学校徴収金、園・学校行事に関すること等

※ 新たに浜松市立小中学校に編入する児童・生徒と保護者に就学手続きに関する相談や説明をする「就学ガイダンス」についても、104 件に対応している

基本計画 5 魅力ある先生を育てます 考察

教員は、「分かる授業、楽しい保育」の実践を目指し、確かな専門性を備えるための研修に努めている。また、教育委員会事務局（浜松市教育センター）では、体罰根絶のための「内面向上研修」や「いじめ対応研修」とともに、今年度は「美術館講座」などを新設し、教員としての幅を広げることにも取り組んでいる。

また、教職員の資質向上を目的とした「学校を元気にする委員会」では、教員が自覚と使命感、倫理観をもって教育活動に当たれるよう協議を重ねた。各園・学校においても、「学校を元気にする委員会」の提言を受けて、教職員の人間関係づくりなど具体的な取組を始めた。

しかし、一人一人の教員が、「確かな学力の育成」のために「分かる授業、楽しい保育」を実践できる指導力、確かな子ども理解に基づいた生徒指導や絶対にいじめを許さない指導ができる力を確実に身に付けられるよう、各園・学校は、ねらいをもった研修を計画的に推進していかなくてはならない。また、それぞれの教員がやりがいと責任をもって教育活動を推進できる職場環境づくりにも努める必要がある。

教職員の採用試験については、LINE アカウント「浜松市教育委員会 採用情報」の開設や「教職員採用ガイダンス」の開催によって、多くの教員希望者に「はままつの教育」を知ってもらうことができ、昨年度の倍率を上回る結果となった。

基本計画 5 魅力ある先生を育てます 調査結果

《施策 1：教職員研修の充実》

教育委員会事務局への調査

平成 25 年度教育センターで実施した研修の工夫と改善点

- 学校現場の課題や今日的な課題に応じて「いじめ対応研修 I・II」「内面向上研修 I・II」「博物館講座」「美術館講座」を新設
- 確かな専門性を備えた教職員の育成を図るために資格取得講座を開講

《施策2：教職員への支援の充実》

学校への調査

「学校を元気にする委員会」の提言を受けて、取組を工夫したか。

	工夫した	工夫したとは言えない
全体	93.3%	6.7%
小学校	94.1%	5.9%
中学校	91.5%	8.5%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

教育委員会事務局への調査

各園・学校での不祥事撲滅に向けての取組

(1) 倫理研修会

- 全園・全校で6月に実施。
- 内容については、園長・校長、教頭の講話や外部講師の講話、グループ討議など。
- 研修会での討議の結果、地域でのあいさつ運動や奉仕作業を計画した学校もある。また、教職員の人間関係づくりや勤務体制について、具体的な手立てを講じた園・学校もある。

(2) 全職員への園長・校長面談

- 全園・全校で10月に実施。
- 職務に関することに加え、健康状態や家族のことなど、個人的な内容についても面談し、園長・校長が全職員の詳細を把握し、一人一人の教員を支援する体制づくりをした。必要によって教育委員会とともに支援していく。

《施策3：教職員の採用・適正配置》

教育委員会事務局への調査①

平成25年度教職員の採用状況

	受験者	合格者	倍率
小学校教諭	280人	72人	3.9倍(0.6)
中学校教諭	225人	33人	6.8倍(1.3)
養護教諭	57人	6人	9.5倍(▼2.5)
幼稚園教諭	51人	7人	7.1倍(3.6)

※ () は前年比較値

教育委員会事務局への調査②

魅力ある教職員の採用に向けた取組

- LINE アカウント「浜松市教育委員会 採用情報」を開設し、浜松市立の幼稚園、小・中学校で働くことに興味をもっている方に役立つ情報を配信
- 「浜松市教員採用メールマガジン」で浜松市立幼稚園、小・中学校教職員の採用試験情報などを配信
- 浜松市立の幼稚園、小・中学校で働きたいと考えている人を対象に、進路の指針となる情報や採用試験の最新情報を提供するため、「教職員採用ガイダンス」を実施

基本計画 6 よりよい教育環境づくりを進めます 考察

各園・学校では、「夢をはぐくむ園・学校づくり推進事業」を受けて、地域の伝統文化を学ぶ活動や地域の特産物などを栽培する活動など、地域の「人・もの・こと」から学ぶ活動、また音楽や絵画などの芸術家から本物を学ぶ活動を通し、夢と希望をはぐくむ取組を推進している。

また、今年度から、小学1年生の「30人学級編制」を導入したことにより、子どもたちの様子に今まで以上の落ち着きが見られ、学習習慣や生活習慣の定着につながっている。来年度は、「30人学級編制」を小学2年生まで拡大し、教育環境の向上に努めることで、小学校低学年へのきめ細かな指導を行っている。

基本計画 6 よりよい教育環境づくりを進めます 調査結果

《施策1：特色ある園・学校づくり》

教育委員会事務局への調査①

「夢をはぐくむ園・学校づくり推進事業」の取組内容（主なもの）

- 伝統文化を学ぶ活動、芸術鑑賞、創作活動
- 読書活動、音楽活動、体育活動
- 校外学習、地域活動、地域産業体験活動、交流活動
- 緑化活動、飼育活動、栽培活動

《施策2：安全で安心な園・学校づくり》

幼稚園・学校への調査①

園・学校全体で安全教育を行っているか。

	園・学校全体で行っている	行っていないとは言えない
全体	100.0%	0.0%
幼稚園	100.0%	0.0%
小学校	100.0%	0.0%
中学校	100.0%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

幼稚園・学校への調査②

警察や地域と連携して、子どものための見守り活動を進めているか。

	進めている	進めているとは言えない
全体	93.9%	6.1%
幼稚園	81.0%	19.0%
小学校	99.0%	1.0%
中学校	100.0%	0.0%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

《施策3：望ましい教育環境づくり》

教育委員会事務局への調査①

小学1年生の30人学級編制実施校

	学校名	校数
35人編制から30人編制にして1学級増を実施した学校	曳馬小、上島小、和田小、篠原小、瑞穂小、北浜北小	6校
35人編制のままの学級数で少人数指導充実のための講師を配置した学校	広沢小、白脇小、蒲小、新津小、与進小、豊岡小、和地小、雄踏小、赤佐小、内野小	10校

※「小学校1年生の30人学級編制」の実施により、平成25年度、市内1年生で、30人以下の学級編制は61校、31人～35人学級編制の学校が35校、入学者0人または複式学級の学校が7校となった。

教育委員会事務局への調査②

小学1年生の30人学級編制の成果

《成果》

- 教師が一人一人の子どもと向き合う時間が増加した。
- きめ細かな指導ができるようになった。
- 学習・生活習慣が定着した。

《具体的な表れ》

- 子どもたちと教師が信頼でつながれている。
- 指導が確実に積み重ねられている。
- 全体的に子どもたちが落ち着いている。
- 子どもたちに元気があり、子どもの表情や教室の雰囲気明るい。
- 子どもたちが教師の言うことをしっかり聞いている。

基本計画 7 家庭や地域との連携を強化します 考察

各園・学校では、地域で活躍している人から直接話を聞いたり、地域の「人・もの・こと」について調べたりする活動を充実させ、子どもたちが地域のよさを知り、地域を愛する心を育むような取組を推進している。また、それらの活動について、保護者や地域に積極的に発信し、意見や評価を得ることで、活動の質を高めるよう努めている。

地域の行事やボランティア等への参加を積極的に呼びかけ、参加した子どもを賞揚し、子どもの地域を愛する心や地域の一員としての自覚を高めるよう努めている。

基本計画 7 家庭や地域との連携を強化します 調査結果

《施策 1：各教科・領域の 9 年間の系統性を踏まえた指導の充実》

重点施策のため検証Ⅱに前掲

《施策 2：開かれた園・学校づくり》

幼稚園・学校への調査①

保護者や地域代表に園・学校評価を依頼し、その結果を園・学校運営の改善に生かしているか。

	生かしている	生かしているとは言えない
全体	98.6%(0.9)	1.4%(0.9)
幼稚園	98.4%(1.6)	1.6%(1.6)
小学校	99.0%(1.0)	1.0%(1.0)
中学校	97.9%(0.0)	2.1%(0.0)
小中一貫校	100.0%(0.0)	0.0%(0.0)

※ () は前年比較値

幼稚園・学校への調査②

新聞等メディアを活用して、特色ある教育活動を地域に発信するよう努めているか。

	努めている	努めているとは言えない
全体	88.3%(3.8)	11.7%(3.8)
幼稚園	79.4%(7.9)	20.6%(7.9)
小学校	92.2%(2.9)	7.8%(2.9)
中学校	91.5%(0.0)	8.5%(0.0)
小中一貫校	100.0%(0.0)	0.0%(0.0)

※ () は前年比較値

《施策3：家庭教育への支援》

幼稚園への調査

幼稚園未就園児サークルへの保育室開放回数。

	0回	1回～5回	6回～10回	11回以上
幼稚園全体	7.9% (▼31.8)	7.9%(27.0)	71.4%(49.2)	12.7%(9.5%)

※ () は前年比較値

《施策4：地域組織との連携》

幼稚園・学校への調査

教育活動への理解と協力を得るために、積極的に園・学校公開の日常化を進めているか。

	積極的に進めている	進めてはいる	あまり進めてはいない
全体	61.5%(0.7)	36.6%(0.2)	1.9%(0.5)
幼稚園	63.7%(4.6)	34.3%(2.6)	2.0%(2.0)
小学校	63.7%(0.6)	34.3%(0.3)	2.0%(0.9)
中学校	55.3%(4.2)	44.7%(4.2)	0.0%(0.0)
小中一貫校	100.0%(0.0)	0.0%(0.0)	0.0%(0.0)

※ () は前年比較値

学校への調査①

子どもたちに対して地域の行事やボランティア活動への参加を積極的に呼び掛けているか。

	積極的に呼びかけている	積極的とは言えない
全体	90.0%	10.0%
小学校	88.2%	11.8%
中学校	93.6%	6.4%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

学校への調査②

地域の行事やボランティア活動等に参加した子どもを把握し、必要に応じて賞揚しているか。

	賞揚している	賞揚しているとは言えない
全体	84.7%	15.3%
小学校	81.4%	18.6%
中学校	91.5%	8.5%
小中一貫校	100.0%	0.0%

※新規の設問

3 具体的取組に対する子どもの表れについての指標・目標値

指標	対象	23年度	24年度	25年度	目標値
＜授業理解＞					
授業の内容がよく分かると答える子どもの割合	小学生	92.7%	92.4%	92.9%	95.0%
	中学生	84.1%	77.6%	76.9%	85.0%
＜学力の定着＞					
浜松市学習内容定着度調査の正答率 （「国語」「算数・数学」の2教科の正答率）	小学生	83.7%	83.4%	82.4%	85.0%
	中学生	69.3%	65.3%	66.4%	75.0%
＜ふるさと意識＞					
自分のふるさとが好きだと答える子どもの割合	小学生	92.0%	94.2%	94.4%	100.0%
	中学生	83.0%	92.6%	93.1%	100.0%
＜1年間の読書量＞					
・ 120冊以上読んだ子どもの割合	小（低）	58.0%	58.8%	58.6%	70.0%
・ 80冊以上読んだ子どもの割合	小（中）	53.5%	56.5%	56.1%	70.0%
・ 40冊以上読んだ子どもの割合	小（高）	59.0%	54.8%	59.2%	70.0%
・ 20冊以上読んだ子どもの割合	中学生	49.0%	50.8%	51.0%	70.0%
＜早寝の状況＞					
・ 午後9時までに寝る子どもの割合	幼稚園児	88.0%	89.1%	86.0%	100.0%
・ 午後10時までに寝る子どもの割合	小学生	78.5%	80.8%	81.1%	80.0%
＜朝食摂取の状況＞					
朝ごはんを食べている子どもの割合	幼稚園児	99.5%	99.4%	99.1%	100.0%
	小学生	98.7%	98.7%	98.5%	100.0%
	中学生	96.7%	96.6%	96.7%	100.0%
＜体力の向上＞					
新体力テストの市平均が全国平均を上回る種目の割合	小学生	89.6%	87.5%	81.3%	100.0%
	中学生	85.2%	77.1%	87.5%	100.0%
	高校生	94.4%	93.8%	93.8%	100.0%

4 平成 25 年度の評価と今後の取組

1 平成 25 年度の評価

達成状況、取組状況ともに、概ね良好である。

「目指す子どもの姿」の達成に向けては、子どもの意識の高まりが見られ、「はままつの教育」が目指している人づくりが着実に進行している。

また、重点施策についても、「心の耕し」をキーワードに、各園・学校を中心に、家庭や地域との連携協力を図りながら、ねらいに沿った意図的な取組が推進された。

基本計画については、各園・学校がこれまでの成果と課題を踏まえ、積極的に取組を推進している。基本計画の中には、さらに努力と工夫を重ね、今後の取組を強化し、質を高めていく必要がある項目がある。特に、「基本計画 1 確かな学力を育成します」、「基本計画 5 魅力ある先生を育てます」については、本市の教育力に直結する重要な項目であり、今年度の考察を踏まえ、今後取組の質を高めていくよう努めなくてはならない。

2 今後の取組

来年度、第 2 次浜松市教育総合計画は、4 年次最終年度になる。それぞれの取組を子どもの学びや育ちに結び付けていくために、「確かな学力」「魅力ある先生」の育成を中心に、今年度の取組をさらに充実させ、取組の質を高めていく。

「確かな学力の育成」に関しては、一人一人の教員が、基礎基本の定着とともに、思考力・判断力・表現力の育成、自ら求めて学ぶ力の育成という、新学習指導要領に則った「学力観」を再確認する必要がある。変化が激しいこれからの社会を生き抜き、「夢と希望をもって学び続ける」ためには、子どもたちに「確かな学力」を身に付けさせなくてはならない。

「魅力ある先生」の育成に関しては、「確かな学力」の育成のために、「分かる授業、楽しい保育」を行う力が必要である。また、確かな子ども理解に基づいた生徒指導、絶対にいじめを許さない指導ができることも必要である。指導力に加え、教職に対する使命感と倫理観、人間的な魅力を備えることを目指し、園・学校は、ねらいをもって研修を推進していかなくてはならない。また、それぞれの教員がやりがいと責任をもって教育活動を推進できる職場環境や人間関係をつくっていくことも大切である。一方、教育委員会は、園・学校とともに、教職員研修や教職員への支援をさらに充実させていく。

今後、教育委員会、園・学校、家庭、地域が今まで以上に連携協力しながら、それぞれの役割を果たし、取組の質を高めるよう努めていく。

3 いのちの尊厳

「はままつの教育」が目指すのは、「人づくり」であり、そのキーワードは「心の耕し」である。「心の耕し」の根本は「いのちの尊厳」である。来年度も、「いのちの尊厳」を基盤に、教員が、一人一人の子どもを大切にし、愛情あるかかわりをもちながら、個に応じた支援に取り組んでいく。また、子どもたちが安心して自分のよさを力いっぱい発揮していけよう、園・学校、家庭、地域、教育委員会が連携協力し全力で取り組んでいく。

5 はままつの教育推進会議：教育総合計画 専門委員の意見 ※この会議には教育委員が全員出席しています。

氏名		学識経験等
1	ふじわら ふみお 藤原 文雄	国立教育政策研究所総括研究官 元静岡大学教職大学院 准教授 ※平成24年度はままつの教育推進会議専門委員
2	みわ ふみよ 美和 富美代	元こども館長 元校長 ※平成24年度はままつの教育推進会議専門委員
3	すずき としこ 鈴木 敏子	元浜松市こども家庭部長 ※平成24年度はままつの教育推進会議専門委員
4	やまもと ちえこ 山本 千恵子	浜松学院大学短期大学部非常勤講師 元幼稚園長 ※平成24年度はままつの教育推進会議専門委員
5	たしろ つよし 田代 剛	発明工夫展を浜松科学館と共催するなど、理科・科学教育について明るい。 企業経営者 ※平成24年度はままつの教育推進会議専門委員
6	みねた さとみ 峯田 里美	市P連においての調査研究等に関わり、子どもの教育環境についての知識・経験に富んでいる。 ※平成24年度はままつの教育推進会議専門委員

(1) 第2次浜松市教育総合計画 進行管理について

- ・ 今年度の評価・検証を行うために多くの調査を行っているが、数値のみを捉えるのではなく、調査を行ったことで「このように取組が進んだ」ということを学校現場に周知し、取組の進捗を学校現場が認識し、実感できるようにしていくことが必要である。
- ・ 時代や世相を反映し、子どもたちの表れも変化していくのだと思う。そこをきちんと見届ける必要がある。

(2) 第2次浜松市教育総合計画 目指す子どもの姿の達成状況について

- ・ 子どもが個人の力で自己肯定感をもつようになることは大変難しいことであり、周囲の力が大変重要である。自己肯定感をもたせるためにどのような手段を講じているかを問い、その具体例を共有していくことができれば更なる高まりにつながる。
- ・ 学校は社会で生きていくための力を身に付けるところであり、「強さ」を育てていくこと、嫌なことがあっても自分でコントロールできるような「復元力」を身に付けさせていくことが必要である。また、それと同時に、「人に寄りかかる強さ」「自らをさらけ出すことのできる強さ」を身に付けさせていくことも大切なことである。
- ・ 「目指す子どもの姿」を各学校が共有し、子どもたち一人ひとりに目をかけることも必要であるが、意図的に子どもたちが立ち止まったり転んだりすることを仕掛けていかなければならない。

(3) 第2次浜松市教育総合計画 重点施策・基本計画の取組状況について

- ・ 言語活動の充実、コミュニケーション能力の育成は大切なことである。言語活動はどの授業でも取り入れていると思うが、単に拡散的な活動で終わっていないか危惧している。各単元のねらいに向かって収束させていく必要がある。
- ・ 仲間の力を借りないと学べないような場を設定したり、思考させる際に「もっと考えてみてはどうか」「別の方法、視点で考えてみてはどうか」といった思考の型を教えたりするなど、時代の要請に応じた力や新しい学力を身に付けさせていくための授業を行う必要があるのではないか。
- ・ 中学校卒業時には社会に出ても差し支えのないような人間に育てていく必要がある。そのためには、確かな学力や必要な資質を子どもに身に付けさせていくための教員の研修を、教育委員会が各学校へ働きかけていく必要がある。
- ・ 「魅力ある先生の育成」のためには、教職員一人ひとりの意識を高めるとともに組織力を高めることが必要であり、押し付けられた取組でなく、教職員が主体的に取り組んでいくことが大切である。
- ・ 「分かる授業、楽しい保育」を行うことが必要であり、そのために教材研究、授業研究を深めるような校内研修が数多く行われていると思うが、教職に対する使命感や倫理観を養う研修、人間的な魅力を高めるような研修はあまり行われていないと思われるため、その部分について教育委員会が研修を行ったり支援したりすることが必要である。

(4) 今後の取組の方向性

- ・ 話し合い活動の充実やコミュニケーション能力の育成についてどのような取組が行われているかについて記述式で問う設問を設定し、その取組事例を広めていく必要がある。
- ・ 「子どもたちが安心して力いっぱい自分のよさを発揮していけるよう、幼稚園・学校、家庭、地域、教育委員会が全力で取り組んでいく」といった姿勢は大切である。今後は、保護者や地域の役割を自覚させるような調査を行ってはどうか。
- ・ 「学力向上」「魅力ある先生の育成」は普遍的なテーマであり、その2つについて、重点的に取り組む姿勢を打ち出すことは大切なことである。

教育委員の意見

- ・ 教育は学校のみで行うのではなく、家庭が果たす役割も大きなものがある。保護者の意識改革も必要だと思う。
- ・ 「教員へのアンケート」で「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した者はアンケート調査を他人事として捉えているのではないか。そうであるならば、設問内容について現場の先生方と協議を行い、練り直していくことも必要だと思う。
- ・ 「保護者への調査」「評議員への調査」がいくつかあるが、学校目線で設問が設定されているように思う。「学校はこのように取り組んでいると思うか」といった、学校の取組が伝わっているかを問う設問があってもよいのではないか。

6 庁内会議での専門委員や有識者等の意見

(1) はままつの教育推進会議：学校・幼稚園規模適正化

※はままつの教育推進会議(1)～(3)には教育委員が会議に出席しています。

1 主な審議課題		学校・幼稚園規模適正化の推進及び基本方針の見直しについて						
2 専門委員	氏名		学識経験等		氏名		学識経験等	
	1	あさい きよし 浅井 潔	浜松学院大学短期大学部 部長		4	あおき ひであき 青木 秀朗	教育に関する研修会を開催するなど、教育の分野に明るい。企業経営者	
	2	やの まさお 谷野 政雄	元校長		5	ふじやま みえこ 藤山 美恵子	市P連においての調査研究等による、子どもの教育環境についての知識・経験	
	3	やまもと ちたお 山本 忠雄	元校長		6	わだ せつあき 和田 節男	天竜区協議会会長	
3 専門委員の意見								
(1)平成25年度の取組について		<ul style="list-style-type: none"> ・数字だけでなく、地域、保護者の状況が背景にあることを考えて進めていく必要がある。 ・統合後の子どもたちのスムーズな学校生活については、現場の先生方の努力があつてこそ。統合して終わりではなくその後のバックアップが必要である。 ・保護者と地域の思いは必ずしも同じではない。そこをつなげる組織があれば、より子どもたちの教育環境を考えることができるのではないか。 ・今後、統合先がさらに統合を考えなければいけない状況が出てくるのが心配される。 						
(2)学校・幼稚園規模適正化基本方針の見直しについて		<ul style="list-style-type: none"> ・「子ども・子育て支援新制度」によって、浜松市が市立幼稚園をどうしていくのかが問われてくる。規模適正化とは違う次元で就学前の子ども幼児教育、保育について考えなければいけない。 ・新制度は規模適正化を超えた大きな判断をしなければいけない内容だと考える。したがって、現基本方針から幼稚園の規模適正化を除外したほうが良い。 ・同じ小規模校であっても、全校の児童数、生徒数には大きな差がある。小規模校の対象について検討をお願いしたい。 ・学級数だけでは適正規模は決められない。しかし、児童数、生徒数だけで決めてしまうと、学年ごとの大小が反映されないため、それを踏まえての検討が必要。 						
(3)平成25年度取組状況報告		<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートなどを利用して、将来の地域づくりを踏まえた意見を聞くことも必要となってくる。 ・統合後の学校に対する教職員の配慮をお願いしたい。 ・小規模校にもメリット、デメリットがある。両方を考えた上で、地域の人たちが、子どもたちの教育環境をどのように考えていくかが大切である。 						
教育委員の意見		<ul style="list-style-type: none"> ・浜松市の市立幼稚園は非常に頑張っている。全国的にも公立幼稚園が少なくなる中、長い歴史もあり、保護者等が送迎を行っている。「子ども・子育て支援新制度」の施行により、これまでの頑張りも変わってしまうのではないかと不安がある。 ・地域の子どもたちが進学や就職で一時期は地域を離れても、結婚し、子育てをする時には地元に戻ってこられるような生活環境が理想的である。 						
審議策 議結の 果方 及向 び性	<ul style="list-style-type: none"> ○「子ども・子育て支援新制度」を踏まえ、市立幼稚園については基本方針から除外する。 ○小規模校への取組については、重点的に取り組む学校に対し、より積極的な働きかけに努めていく。 ○平成26年度以降動きのある学校・幼稚園 <ul style="list-style-type: none"> ・H26. 3月末 休園中の南庄内幼稚園、龍山第一幼稚園を廃園とする。 ・H26. 4月 北庄内小学校と南庄内小学校を統合し庄内小学校を開校し、庄内中学校との小中一貫校とする。 ・H26. 4月 大平小学校を亀玉小学校に統合する。 ・H26. 4月 龍山第一小学校を横山小学校に統合する。 							

(2) はままつの教育推進会議：小中一貫教育

1 主な審議課題		小中一貫教育の推進について						
2 専門委員	氏名		学識経験等		氏名		学識経験等	
	1	瀬戸 知也 <small>せと ともや</small>	静岡文化芸術大学 教授		4	山崎 貴裕 <small>やまざき たかひろ</small>	企業経営者「はままつ少年の船」に指導者として参加するなど教育に関心が高い。	
	2	原田 年康 <small>はらだ としやす</small>	静岡大学教職大学院 教授 元校長		5	仲井 英和 <small>なかい ひでかず</small>	市P連役員として、子どもの教育環境について知識・経験に富んでいる。	
	3	伊藤 豪 <small>いとう ほう</small>	元校長					
3 専門委員の意見								
(1)各校区の取組成果		<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校の交流が増えてきたことで、教員の意識改革が進んできている。 ・小中学校のつながりを意識した小・中合同研修が全中学校区で実施できており、研修内容も充実してきた。 ・地域の特色を取り入れた教育活動や地域の外部人材を取り入れるなど、地域とのつながりを意識した体制づくりが進んできている。 						
(2)地域と小中一貫教育のつながり		<ul style="list-style-type: none"> ・地域・保護者とのつながりを持ちながら、連携・協働して小中一貫教育を進めていこうとする学校が増えてきた。 ・小中一貫教育の実態や情報を、さらに発信していく必要性を感じている。 						
(3)「目指す子どもの姿」達成のための取組成果		<ul style="list-style-type: none"> ・教員は、地域性(自然、文化等)を意識した指導を心掛けている。 ・小中学校の教員が意思疎通を図り、子どもの情報を早い段階から共有し、指導に生かしている。 ・子どもにとっては、小学校から中学校へのつながりに安心を持っていると思う。 ・各中学校区では、小中一貫教育の取組が年々向上し、地域の一体感が醸成されてきている。 ・児童生徒の家庭環境や学習内容等について情報共有できている。 ・教員が、小学校から中学校までの9年間の授業のつながりを意識することができ、指導の幅を広げることができている。 ・子どもたちが、地域を学び、地域を好きになれるよう、地域としても学校に協力していくことの大切さを感じた。 						
教育委員の意見		<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫教育を進めていくことで、地域との結びつきが強まっていることを感じる。 ・中学校区での取組が進んでいるのが良く分かるが、取組の中に地域、保護者を含めた活動がさらに広がっていくと良いと思う。 ・各学校は、自然、歴史、環境等から学び、何らかの形で学力向上に結びつけているが、大きな視点から「はままつの教育」の成果を問われると、まだ途中の段階であると感じる。 ・子どもたちの将来の姿を見据え、小中学校の授業、指導のつながりが、子どもたちに表れてくることを期待する。 						
審議結果の方及向 び性	<ul style="list-style-type: none"> ○「目指す子どもの姿」の共有をさらに推進していく。各中学校区で「目指す子どもの姿」の取組や手立てを明確にし、家庭や地域とのつながりを図っていく。 ○子どもと教師のつながり、家庭・地域・学校のつながり、9年間の学びと育ちのつながりなどを検証していく。 ○子どもたち一人ひとりに、教師、地域、保護者がどのように関わっていくかの、小中一貫教育の意義を整理し、第3次浜松市教育総合計画に生かしていく。 							

(3) はままつの教育推進会議：少人数学級

1 主な審議課題		少人数学級(30人学級)編制の推進について					
2 専門委員	氏名		学識経験等		氏名	学識経験等	
	1	はらだ としやす 原田 年康	静岡大学教職員大学院 教授 元校長		3	たしろ つよし 田代 剛	発明工夫展を科学館と共催するなど、理科・科学教育に明るい。企業経営者
	2	やまもと ちえこ 山本 千恵子	浜松学院大学短期大学部非常勤講師		4	みねた きとみ 峯田 里美	市P連においての調査研究等に関わり、子どもの教育環境についての知識・経験に富んでいる。
3 専門委員の意見							
<p>(1)和田小学校の学級編制の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級の実施によって、教師が子どもたち一人ひとりに目が届き、ノート書き方もみんな揃うように指導されていることに安心した。 ・入学後半年が経過した時期としては、子どもたちが落ち着いていると感じた。少人数になることにより教室が静かになり、落ち着きが生まれていると感じた。 ・子どもたちの行動に個人差がほとんどなく、少人数学級によって教室が静かになることは、教育の大前提であると感じた。 <p>(2)少人数学級(30人学級)編制の実施について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級の人数が少なくなり、教師が子どもたち一人ひとりに目が届く事により、授業は静かに進んでいる。ただ、子どもらしさを失ってってしまうようにも感じる。 ・少人数学級の実施により、教師と子どもたちの関係が密になり、子どもらしさが出てくる状態が好ましいと思う。 ・幼児期の生活と小学校での生活が違う中で、少人数学級により学校生活に慣れて安定させていくことはありがたい。安定感が生まれたら、その後どうしていくかということを長い目で考えていく必要があるのではないかな。 							
教育委員の意見		<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちは入学から半年過ぎた段階で、授業によく集中出来ている。支援員が機能している学級と、機能していない学級が見られた。支援については必要な子どもに対してしっかり機能させていく必要がある。 ・教室内の人数が少ないことにより、教室の雰囲気も違ってくると感じる。教育環境にも効果があり、授業への集中力も変わってくると感じる。 <p>先生方は、その効果に甘んじることなく、熱意をもって学級運営をしてほしい。</p>					
審議策 結の 果方 及向 び性	<ul style="list-style-type: none"> ○平成26年度の少人数学級編制の実施については、引き続き、1学級増やした場合の学級人数が、25人以上となる学校を対象校としていく。 ○平成26年度の小学1・2年生の30人学級編制に向けて、今年度以上に市費非常勤講師の確保に努め、少人数学級、少人数指導の充実に向けた人的環境を整えていく。 ○対象校の施設の状況等を確認し、学校と調整した中で施設整備に努めていく。 						

(4) はままつ人づくり教育推進協議会

1 主な審議課題		浜松の人づくりの充実に向けた取組について				
2 有識者等	氏名	学識経験等		氏名	学識経験等	
	1	ふくなが ひろみ 福永 博文	浜松学院大学教授	5	かんだ まきひろ 神田 政宏	浜松市立浅間小学校 保護者代表
	2	おおいし けんじ 大石 健次	浜松学院大学教授	6	ふじやま みえこ 藤山 美恵子	浜松市立三ヶ日中学校 保護者代表
	3	かわい しのみ 河合 しのぶ	元校長	7	いしはら しんすけ 石原 慎介	浜松商工会議所 青年部
	4	やまぎし ひろみ 山岸 博臣	浜松市立新原幼稚園 保護者代表	8	ひらたま つとむ 児玉 哲義	市民代表 土道館
3 有識者等の意見						
<p>(1) 中学校区人づくり教育推進事業に対する意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校区で、教師と保護者が同じ目標を持ち、地域の子どもたちを育てていることはとても有意義である。今後も、中学校区で子どもを育てていくことが大切である。 ・町に出ると「はままつマナー」のポスターを見掛けるようになり、地域に浸透し始めたことを感じる。マナーの中身でいえばこの町でも変わらない。「幼児期に育てたい力」家庭版とつながっている、こうした身に付け方が浜松らしさであることを意識したい。 ・幼稚園、保育園、小学校、中学校のつながりは、「心の耕し」において、とても大切であることを再認識したい。 ・「幼児期に育てたい力」と「はままつマナー」をつなげ、義務教育最後までの子どもの成長の姿を考えたい。 <p>(2) 中学校区の取組、「家庭や地域社会と共に『いじめ』を根絶するための活動」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「はままつ人づくり教育推進事業」のうち、本年度、「家庭や地域社会と共に『いじめ』を根絶するための活動」を重点として取り上げたことがよかった。また、学校、家庭、地域社会が一体となり「いじめを生まない、生み出さない」取組を行った中学校区の実践を通して、成果と課題について協議できたことがよかった。 ・中学校区のフォーラムの中には、数年間に渡って取り組み、内容が発展しているものがあり、すばらしかった。特に、北浜中学校のフォーラムでは、生徒と学校を支援する地域の力を感じた。このように地域の方々が直接生徒に関わることは、大変有意義である。 ・いじめ問題は、学校、家庭、地域が協働して取り組む問題。各校区でこうした意義のある取組が広がるとよい。 ・学校や校区で行われていることを家庭や地域にもっと発信していくことが大切である。情報を発信し、理解を得ることで、地域社会が一体となった取組ができる。 ・「地域フォーラム」のような世代を越えたいろいろな役割を持った方が集まり、意見交換したり、討論したりすることを子どものためにも続けてほしい。 ・子どもの自浄能力が大切である。学級や学校全体で取り組み、一人ひとりが真剣になって考えることができるような実践を目指したい。 						
審議結果の方及向び性		<p>「浜松の人づくりの充実に向けた取組」として、「中学校区人づくり教育推進事業」に対する意見を、来年度の具体的取組に反映させる。</p> <p>(1) 冊子「はままつマナー」の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各学校における「はままつマナー」の活用については、活用の場の多様化や日常化が見られる。 ・人と人との関わり中で、子どもがマナーを実感しながら身に付けていくよう、幼児期から義務教育終了までの子どもの姿を考え、創意工夫して「はままつマナー」を繰り返し活用していく。 <p>(2) 中学校区人づくり教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本年度、効果的だと評価された「家庭や地域社会と共に『いじめ』を根絶するための活動」を今後も推進していく。 ・子どもが主体となって道徳性を豊かに育む活動や、園・学校が家庭・地域と一体となって取り組む活動で、児童生徒の交流や地域への啓発等を充実させ、各中学校区で、人づくり教育のためのより創意工夫した活動を推進していく。 				

(5) 浜松の幼児教育を考える会

1 主な審議課題		幼児教育に関する課題・具体的施策について					
2 有識者等	氏名	学識経験等		氏名	学識経験等		
	1	朝元 千恵子	浜松児童福祉園 ヘリオスプレスクール園長		6	古橋 紀子	市立幼稚園PTA連合会副会長
	2	野村 弘子	七恵会 ながかみ保育園長		7	細倉 ゆずる	空華学園 中沢幼稚園長
	3	井口 薫	認証保育所 佐鳴保育園長		8	大友 箕子	日本文学学園 日本文学教幼稚園長
	4	西條 厚子	認証保育所 保護者代表		9	西岡 とき子	ふたば学園 水窪幼稚園長
	5	佐藤 愛	私立幼稚園PTA連絡協議会会長				
3 有識者等の意見		<p>「浜松市幼児教育振興アクションプログラム」に基づいての協議</p> <p>(1) 幼稚園・保育所等における教育・保育内容の充実と連携について</p> <p>①「幼児期に育てたい力」の育みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・就学前にどんな力をつけるか、何を大切に育てていくか、ということが大事である。それが「幼児期に育てたい力」に示されているので、共通に進めていくとよい。 ②「幼児期に育てたい力」家庭版と指導資料の活用について ・具体的に重点化する項目を作り、保護者会や懇談会、園便り等で子どもの表れを具体的に話したり掲載したりしている。 ・保護者との面談時に、「幼児期に育てたい力」の冊子を目安に話をしている。また、指導資料の「家庭に伝えるポイント」を参考にし、具体的に伝えている。 ・指導資料は、目で見ても分かりやすい。家庭啓発、指導計画への位置付け、研修等で活用が進んできている。 ・園側からの一方的な発信にならないよう、保護者からの思いを聞いたりアンケートを取ったりして理解を深め、またそれを保護者に返すなど工夫をしている。 ・保護者の立場では、家庭版が配布された時はあまり関心がなかったが、園便りに掲載されることが多くなり、チェックする機会もできた。知らず知らずのうちに意識したり、子どもに力が身に付いていたりすると感じる。 ・私立幼稚園協会として、もっと保護者に広めたいと思う。園長会で話し合い、情報交換もしていきたいと考えている。 <p>(2) 小学校教育との円滑な接続を図るための幼稚園・保育所等と小学校との連携強化について</p> <p>①小学校の授業参観(4月22日)を通しての主な感想や意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学して12日と短い時間であったが、子どもたちは落ち着いていた。幼児期からの体験の積み重ねが生きていると感じた。一人ひとりを認めながら、学びの楽しさを積み重ねていくことが大切だと思った。 ・教育の基本は家庭教育だと思うが、なかなか家庭では難しい。先生や友達と一緒に過ごす集団教育の大切さが分かった。 <p>②民間保育所の保育参観(9月30日)を通しての主な感想や意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境が工夫され、コーナーがたくさんあり、子どもたちは自分で考えて遊んでいた。縦割り保育の中、小さな子と関わることで、自分の成長を感じ、優しさや思いやりが育まれていた。 ・園に何を求めるのか。字や絵、英語などを教えることがいいのではなく、心を耕すのは今しかないのではないかな。 <p>③滑らかな接続について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園・保育所では興味・関心を高める中、生活全般、自然との触れ合い、子ども同士の何気ない会話などから文字や数に関心が出る。幼児期にそのことを十分しておくことが大切であり、学びにつながっていくと感じた。 					
審議結果の方向性	<p>(1) 浜松市幼児教育振興アクションプログラム進捗状況の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> ○施策1 「心の耕し」(幼児期に育てたい力の育み)を軸とした幼児教育の充実 ・調査結果から、「幼児期に育てたい力」家庭版及び指導資料は、個人面談や懇談会、子どもへの指導、園便りへの掲載等で、効果的に活用していることが検証できた。一方、保護者に配付しただけでは関心が高まらないという課題が挙げられた。今後は、啓発の仕方の工夫が必要だと考える。 ○施策3 小学校教育との連携・接続の強化 ・調査結果から、園児と児童の交流が、心の育みに寄与していることが分かった。互惠性のある交流により、連携・接続の強化が進みつつあることが確認できた。 <p>(2) 26年度「幼児教育を考える会」で取り組むこと</p> <ul style="list-style-type: none"> ・26年度は「浜松市幼児教育振興アクションプログラム」取組の最終年度となる。今年度の検証で得られた数値を上げることだけでなく、各園が内容の質を高めることを意識して取り組むよう周知する。 ・「幼児期に育てたい力」家庭版の啓発について、工夫している方法を「幼児教育を考える会」の中で紹介し合い、情報共有したことを各園に広めることに努める。 						

(6) 浜松市外国人子ども支援協議会

1 主な審議課題		外国人児童生徒の日本語・学習支援と母語教育について						
2 有識者等	氏名		学識経験等		氏名		学識経験等	
	1	いげがみ しげひろ 池上 重弘	静岡文化芸術大学教授		4	たにまる 谷丸アンナ由貴美	浜松市立開成中学校 保護者代表	
	2	さとう こういちろう 佐藤 公一郎	シンエイランド園長		5	こばやし めり 小林 芽里	特定非営利活動法人 浜松NPOネットワークセンター事務局長	
	3	むらた かずひこ 村田 和彦	公益財団法人浜松国際交流協会業務執行理事		6	ないき ひろゆき 内記 裕之	ハローワーク浜松外国人労働者専門官	
3 有識者等の意見		<p>(1)各立場から見た外国人の子どもに対する支援の現状と課題</p> <ul style="list-style-type: none"> この2、3年、大学の各学年に外国人大学生が数名おり、同じ境遇の子どもたちの支えになりたいという共通の意識がある。それぞれが子どもたちと関わる活動に参加している。 大学に進学する子どもがかなり増えてきたが、経済的な壁、就職の壁にぶつかっている。 生産現場の環境がリーマンショック前後で変化している。ある程度日本語能力がないと契約されない。 就職活動で、名前と顔が外国人であるということで門前払いされ、面接してもらえない。日本で育っても日本人と同等に扱われないという報告を受けている。 定時制高校の退学率が非常に高いことが課題である。 外国人学校は県内12校中、浜松は4校。静岡県は日本で1番多い。浜松のブラジル人学校の生徒のうち、半数以上が帰国し、進学する。静岡県ではブラジル人学校を卒業しても高校受験をする資格がないため、日本に残った子どもたちは、中学卒業程度認定試験を受けないといけない。ハードルが高くてその壁で挫折している子が多い。 現在は第2世代の子どもたちが学校に通っている。親が母国語も日本語もできないという現実が新たな問題になっている。 HICE設立当時は国際交流が主だったが、現在は中身が広範囲で、福祉関係など大小様々な悩み相談を受けている。ハローワークと共に家庭環境・経済・就職の問題がある。 <p>(2)外国人の子どもの教育の在り方</p> <ul style="list-style-type: none"> 生活言語については、バイリンガル支援により、自然習得されていくが、日本語会話に困らない子どもたちの多くが受験でつまづいている。学習言語の習得ができていないということが問題である。 中学校での大学生による学習支援は、受験勉強のノウハウを教える機会となり、意欲化につながっている。 母語での思考能力が第二言語の習得に大きく左右する。全ての子どもが母語の思考能力で日本語学習を开花させていくには、人的・予算的に困難。母国語教室の支援を今後どうするかが課題である。 母語が確実に身に付いている子どもは日本語習得も順調に進む。現段階では保持していくことも困難。保護者の意識や母語と日本語教育への関心を高めていくことが大切。家庭内での母語が大切である旨を保護者に話している。 インターナショナルクラスはブラジル人ばかりではなく他国の生徒もいる。ペルー人が一緒にポルトガル語を学んでおり意欲もある。会話だけでなく読み書きもできるレベルまでもっていくと、仕事に就き活躍できる場がある。ブラジルでも日系企業の仕事に就くことができる。 学習言語の課題は大きい。指導補助者を増やししながら学習指導にシフトしていくよう取り組んではいいるがまだ不十分。通級型から派遣型に変わり、移動の必要がなくなり、学校生活のリズムをあまり変えなくてもいいというメリットも確認できた。今後、学習言語として身に付ける場面設定が必要である。 世界の中で人として豊かに生きていくために母国語を大切にしたいという部分もあっていいのでは。母語教室の出发点は日本語も母国語もできない子どもたちの為だったが、子どもたちが成長して通訳の仕事もしている話を聞き、保護者や子どもにも啓発していけたらいいと思う。県立高校への支援は困難かもしれない。 母語教育に関して、それぞれの歴史文化を把握することで、違いを認め合い今後の将来を考えることができる。読み書きは歴史文化を学ぶ最低限必要な事である。 						
審議結果の方及向性		<ul style="list-style-type: none"> ○平成25年度から再構築した小中学校における支援体制については、そのメリットが確認できた。さらに、支援の質を高め、子どものニーズに応じた対応が求められる。 ○将来、浜松市民として多文化共生社会の構成員となる子ども達のために、今後も日本語・学習支援や母語教育の在り方については協議を重ね、よりよい支援体制を整備することが必要である。 						

(7) 浜松市不登校児支援協議会

1 主な審議課題		不登校対策についての情報交換及び協議と、今後の不登校対策に関する協議						
2 有識者等	氏名		学識経験等		氏名		学識経験等	
	1	おおば ちたか 大場 義貴	聖隷クリストファー大学准教授		4	ひらかわ えつこ 平川 悦子	浜松市立小中学校スクールソーシャルワーカー	
	2	おおた いづみ 太田 泉	浜松市立小中学校スクールカウンセラー		5	やまざき ともかつ 山崎 知克	子どもの心の診療所所長	
	3	あんま みつのり 安間 光紀	適応指導教室専任指導員					
3 有識者等の意見								
(1) 第1回協議会 各参加者からの不登校児童生徒に関する意見交換		<ul style="list-style-type: none"> ・医療現場から見ると、不登校の原因は、「勉強がわからない」「友達との関係が持てない」「先生との関係が持てない」の3点である。 ・医療で不登校を調べる内容は、「知能検査で全体のIQ確認」「学習障害について」「発達障害や家族の影響」の3点である。 ・原因を特定して補完すれば、学校に行けるというものでもない。 ・家にいるとメンタルの状態が悪くなるので、学校に準ずる適応指導教室やフリースクール、別室登校などを促す。 ・精神保健福祉センターでは、スクールカウンセラーによるメンタルヘルスに関わる授業を実施する予定である。 ・親に養育力がない場合が増えており、関係機関もその対応に苦慮するケースも多い。 ・家族が社会から孤立しているケースもある。 ・医療ではクリティカルポイントがあり、診断が進んでいるが、福祉や学校ではそれがなく、感覚で進んでいるように感じる。 						
(2) 第2回協議会 発達障がい疑われる不登校児童生徒への対応について		<ul style="list-style-type: none"> ・適応指導教室では、学校や医療機関との連携を深めており、中3生に進路選択で適切な支援を行っている。 ・学校行事や定期テストへの参加も含め、学校復帰に目覚しい成果をあげている。 ・人とのかわり方が難しい子どもは、市内3中学校に設置している通級指導教室に通級している。 ・浜松市では、就学前の発達に課題がある子どもを対象に、1歳半検診をきっかけに子育て支援広場を開設している。 ・幼児には「はますくファイル」も持たせている。この有効活用を探りたい。 ・不登校児童生徒への成功事例を研修会で取り上げていくと、先生方の指導バリエーションも増えていく。 ・発達障がいや就学指導に対する保護者の理解をどう取り付けていくのかも、ポイントとなる。 						
審議結果の波及向性	<ul style="list-style-type: none"> ○浜松市では、「はますくファイル」を導入し、学齢期以前の子どもを対象に、子育て支援広場を設置している。これらの活動を参考に、親も巻き込んだ支援方法を検討していきたい。 ○「はますくファイル」のスタート以降に生まれた子どもたちが、小学校に通い始めている。保護者も自分の子どもの特性について理解を深めつつある。今後の就学指導などにも、好影響を与えることが予想される。 ○市内の小中学校に開設している通級指導教室では、教室内の掲示や指導方法などに多くの工夫が見られる。通級指導教室と適応指導教室の連携や互いのスキルアップも望まれる。 							

(8) 浜松市子ども読書活動推進会議

1 主な審議課題		第2次浜松市子ども読書活動推進計画について、学校図書館について						
2 有識者等	氏名		学識経験等		氏名		学識経験等	
	1	こすぎ たいすけ 小杉 大輔	静岡文化芸術大学准教授		3	ふるはし ゆりか 古橋 由理佳	浜松市PTA連絡協議会幹事	
	2	ふるはし えつこ 古橋 悦子	学校図書館ボランティア「おはなタイムの会」代表		4	すずき すまこ 鈴木 澄子	浜松市社会教育委員	
3 有識者等の意見								
(1) 第2次浜松市子ども読書推進活動計画について(計画にかかわる取組や実績について)		<ul style="list-style-type: none"> 各学校への図書費は、各学校の裁量によって使用されているものなのか。学校の図書室を見たときに、学校により蔵書に差があるように感じる時がある。 (推進計画p.15 3学校・幼稚園等における子どもの読書活動の推進(3)資料・設備の整備・充実) 浜松市全体と考えると蔵書数が少ない。区により取り組みが違うことも感じる。学校図書の廃棄基準はどのようになっているのか。(推進計画p.15 同上) 冊数だけでなく、内容が大切である。実際に動く本と、薦めたい本は違う。お金を掛けて、子どもが読みたい本を買うのか、大人が読ませたい本を買うのか。出会ってほしい本は是非図書室に置いてほしい。また、そのような本を手渡せる人を図書室に置いてほしい。図書館補助員により、置いてある本が違うといった現状もある。市立図書館で、学校図書館へのお薦めのリストを作成してほしい。 (推進計画p.15 3学校・幼稚園等における子どもの読書活動の推進(2)読書指導の充実(エ)推薦図書の選定) ブックスタートについて、今年度から東部保健福祉センターを会場として増やしたとのことだった。開催会場が増え開催回数が増えているはずなのに、なぜ4月の参加組数は減ってしまったのか。 (推進計画p.7 1家庭における子どもの読書活動の推進(1)読書習慣の重要性の広報(ア)ブックスタート事業) ボランティア仲間へ聞くと、ブックスタートを知らない人もいる。祖父母世代への周知も必要なのではないか。 (推進計画p.7 同上) 呼び掛けだけでは難しい。幼稚園に勤務の際に、家で親に子どもに本を読んでもらえるようにと取り組んできた。講演会を開催したり、絵本だよりを出したり、また、本の貸出日を設け、子どもが読んでほしい本を2冊持って帰るといった試みもした。保護者にこちらを向いてもらうことは、とても難しい。 (推進計画p.7～ 1家庭における子どもの読書活動の推進(1)読書習慣の重要性の広報) おでかけ図書館など外にできるサービスが充実しているようだが、後継者は育っているのか。(推進計画 2市立図書館における子どもの読書活動の推進(1)市立図書館の整備・充実(イ)専門的職員の育成や配置) 						
(2) 先進校視察時における学校図書館への意見(浜松市立引佐南部中学校への学校訪問)		<ul style="list-style-type: none"> 限られた環境の中、地道な努力をされているという印象をもったが、そのような学校が文科省の表彰を受けたことには喜びを感じる。 子どもの読書活動を推進していく上で重要なのは、設備ではなく「人」なのだ実感させられた。決して、十分な環境とはいえない状況において、生徒たちに本を届けるために様々な心配りがなされていることが、選書・配架などから感じられた。 中学生になると読書傾向も個人差が大きくなっていく。必読図書の冊数を多くして、その中から10冊という方法にすると読みやすくなるかもしれない。また、『次の一冊』というように関連した本の紹介があったりすると、気に入った本から読書の世界が広がってゆくのでは…。 空き教室3部屋を利用した図書室は、調べ学習に合った図書を集めた部屋になっていたり、話題性に合った本を掲示したりと本を読んでみたくなる様な工夫がされていた。 学校で必読図書を設けている事は、読書習慣のあまり無い生徒には読書に関心を持つ機会になるのではないかと感じた。また、朝読書の本を学級文庫の本を利用する事で、読書にあまり興味の無い生徒でも朝読書を通して1冊でも多くの必読図書を読む事が出来て目標を達成しやすくなるのではないかと感じた。 「朝読書」の時間は「本を読むことが楽しい」と気付かせる大切な時間だ。継続してこそ成果が期待できると思う。 幼稚園では「読み聞かせ」を熱心に行っていると思うし、小学校でも力を入れて指導されていることと思う。それぞれの教育の場でも取り組みを知ることで、読書活動推進の力になることと思う。 						
審議結果の果方及び向び性		<ul style="list-style-type: none"> ○学校図書は、学校図書標準の充足率100%を目標として予算が組まれている。廃棄と購入のバランスを考慮しながら充足率100%を目指し、有益な図書の充足状況と利用が図れるよう学校図書館支援を進めていく。 ○ブックスタート事業については、中央図書館の日曜開催を増やしたり、開催会場を増やしたりしている(東部保健福祉センター)。周知が図れるよう小児科やなかよし館、健康づくり課等でのちらしの配付、PR活動を進めていく。 ○図書館では、「150冊の絵本リスト」「小学生向け読んでみませんか」「読んであげたい昔話と物語の本」「中学生の時に読んでほしい本」などのリストがある。また、小中学校に「学習支援パック」の資料貸し出しをしている。これらのリストを選書の参考にしてもらえるよう学校に働き掛けていく。 ○職員の資質向上を目指し、著作権やレファレンス、デジタルアーカイブ等についての研修会を開催している。今後も順次計画していく。 						

Ⅲ 教育委員会の活動状況

活動の概要 (㊤は平成24年度の活動回数)

○教育委員会会議の開催・・・19回 (㊤19回)

教育委員会会議は、定例会・臨時会合わせて19回開催し、教育委員会規則の改正等の議案を審議しました。

特に、ノロウイルスによる集団食中毒の発生、教職員の不祥事対策、全国学力・学習状況調査の結果など緊急性の高い事案について、各委員が様々な観点から熱心に議論を重ねました。

なお、移動教育委員会は3回開催しました。
(開催内容の詳細は、69頁以降を参照)



<1月30日 1月教育委員会定例会>

○委員協議会の開催・・・19回 (㊤14回)

委員協議会は、教育委員会会議の開催日等に合わせ毎月開催しました。教育委員会に提案する議題の提案理由等について事前説明を行うほか、教育行政全般に関する情報や喫緊の課題について事務局から資料の提供・説明等を行うなど、教育委員会会議の円滑な運営や議論の活性化を図りました。

○教育委員としての活動・・・72回 (㊤65回)

教育委員は、教育委員会会議の出席以外に、はままつの教育推進会議等の会議、学校や教育施設への訪問、教員研修の講師などの様々な活動を行いました。

<内訳>

◆会議出席・・・27回 (㊤31回)

・はままつの教育推進会議 (6月～3月)

<テーマ>教育総合計画 (6回)

小中一貫教育 (3回)

学校・幼稚園規模適正化 (2回)

少人数学級 (1回)

教育総合計画の会議では、幼稚園や小中学校の第2次浜松市教育総合計画の取組状況の調査結果に基づき、検証・評価を行いました。

加えて、平成27年度以降の本市の教育行政の指針となる新たな第3次教育総合計画の策定に向け、各教育委員が専門委員と共に活発に意見交換を行いました。

また、学校・幼稚園規模適正化の会議では、平成27年度からスタートする子ども・子育て新支援制度により認定こども園の普及が進められ、市立幼稚園もこれに対応していく必要があることから、現在の適正化基本方針の対象から幼稚園を除外する改訂案について検討を行いました。



<1月21日 はままつの教育推進会議
:教育総合計画>

・**県・政令市教委3者意見交換会（6月）**

静岡県教育委員会と静岡市及び浜松市の教育委員会が連携し、情報の共有化を図るなど、協力して様々な教育課題に取り組むことを目的とした会議が、3者の教育委員全員が出席し、昨年に引き続き6月に静岡市にて開催されました。

今年度は、「学校・家庭・地域の連携について～教育委員会はどう支援するか～」をテーマに話し合い、コミュニティスクールや学校評議員制度など、それぞれの取組を紹介すると共に、意見交換を行いました。



<6月6日 県・政令市教委3者意見交換会>
(静岡市)

・**学校を元気にする委員会（9月）**

相次いだ教職員の不祥事の発生を受け、教職員が自覚と使命感を持ち、学校組織の改善方法や職員集団の在り方等を提案することなどを目的に設置された学校を元気にする委員会に、昨年度に引き続き教育委員も参加しました。

現場の教職員から現状を聞いたほか、事例研究のグループ協議等で意見交換を行いました。



<9月24日 学校を元気にする委員会>
(教育会館)

・**指定都市教育委員・教育長協議会（6月、1月）**

20政令指定都市の教育委員及び教育長で構成する協議会に出席し、政令市共通の課題等について議論し、国に対する要望事項を取りまとめました。

平成25年1月に開催された第2回会議の分科会では、「教育委員会制度の在り方について」をテーマに、平成25年12月に提出された中央教育審議会からの答申で示された、新たな教育委員会制度案について意見交換を行うと共に、文部科学省の担当者とも意見交換を行いました。



<1月29日 第2回指定都市教育委員
・教育長協議会>(東京都)

- ・ 関東甲信静市町村教育委員会連合会教育委員の研修会
- ・ 静岡県市町教育委員の研修会 等

◆学校・施設訪問・・・17回 (2416回)

- ・市研究指定校発表会 (6月、10月、11月)
幼稚園3園、小学校2校、中学校2校



<6月28日 指定公開保育>
(奥山幼)



<10月31日 指定校発表>
(雄踏小)

- ・小中学校・市立高校の入学式、卒業式 等

◆その他・・・28回 (2418回)

- ・三遠南信中学生交流会 (8月)

飯田市・豊橋市・浜松市の中学生が活動を通して友好を深め、将来に向けた交流の架け橋とする三遠南信中学生交流会が、浜松市を会場に開催されました。

今年度は、「いじめをなくそう 中学生サミット in 浜松」として、中学生が生徒会や学校の活動を通じてどのような取り組みができるかをテーマに意見交流会を行いました。生徒の皆さんの真剣なグループ討議に、教育委員も参加しました。



<8月7日 三遠南信中学生交流会>
(かわな野外活動センター)

- ・市長と教育委員との懇談会 (9月、2月)

「こども第一主義」を掲げる市長と教育委員が、学力向上対策など、現状に対する感想や今後の取組等について直接意見交換を行いました。

- ・教員研修講師 (5月・6月)、夏休み夢会議 (8月) 等



<5月10日 教員研修>(教育会館)



<2月13日 市長と教育委員との懇談会>

1 教育委員会組織

浜松市教育委員会は、5人の委員により組織されています。委員は、市長が市議会の同意を得て任命し、任期は4年で、委員の中から委員長が選任されます。

教育長は、教育委員の中から教育委員会が任命し、教育委員会の指揮監督の下に、委員会の権限に属する全ての事務をつかさどります。これらの事務を処理するために事務局が置かれています。

教育委員会委員（平成25年度在籍委員）

役職	氏名	任期		備考
委員長	おおた よしこ 太田 佳子	2期	H25.10.3～H29.10.2	元社会教育委員 元小学校スクールヘルパー
委員長 職務代理者	いしだ ゆきこ 石田 由紀子	1期	H22.10.1～H26.9.30	会社員 [保護者]
委員	すずき しげゆき 鈴木 茂之	1期	H24.10.4～H28.10.3	会社経営・浜松市PTA連絡協議会会長 [保護者]
委員	あつみ としゆき 渥美 利之	1期	H26.1.1～H29.3.31	弁護士
委員 (教育長)	こだま かずき 児玉 一記	1期	H26.1.1～H27.12.31	元小学校長
委員長	つじ よしのり 辻 慶典	2期	H25.4.1～H29.3.31 ※H25.12.31退任	弁護士 [保護者]
委員 (教育長)	たかぎ しんぞう 高木 伸三	3期	H24.1.1～H27.12.31 ※H25.12.31退任	元小学校長

2 教育委員会会議の開催

教育委員会会議は、原則として毎月1回の公開の定例会のほか、必要に応じて臨時会を開催しました。

(1) 平成25年度開催回数

19回（19回） 定例会12回（㊦12回）
臨時会 7回（㊦ 7回）移動教育委員会1回含む。

(2) 開催時間平均

1時間22分（㊦1時間26分） ※臨時会は除く。

(3) 議案の内容

議案の内容	件数
① 議会提出議案等に対する意見	26
② 教育委員会規則・規程の制定、改廃	15
③ 人事案件	14
④ 附属機関委員の委嘱	7
⑤ 教育委員長及び職務代理者等の選任	6
⑥ 基本方針・計画の策定	4
⑦ 通学区域の設定及び変更等	3
⑧ 教育委員会点検・評価	1
⑨ 教科書採択	1
⑩ 学校の統廃合	1
⑪ 市指定文化財の指定	1
計	79

・議案・・・79件（㊦43件）
・協議・・・0件（㊦ 2件）
・報告・・・42件（㊦42件）

(4) 傍聴者数

49人(平均3.5人/回) (24)35人[平均2.9人/回] ※非公開会議は除く。

(参考) 移動教育委員会81人(平均40.5人/回) (24)187人[平均46.8人/回]

【別掲】

(5) 会議録

① 会議録を作成し、次回会議での承認後、速やかに公表しました。

- ・開催日時、場所
- ・出席状況(出席者役職・氏名)
- ・傍聴者数
- ・議事内容(議案について発言者の発言内容全てを記録)

② 会議録に加え、会議資料及び報告事項に関する質疑応答の概要もホームページで原則公開しています。また、市政情報室及び各区役所の市政情報コーナーでも閲覧できます。

3 委員協議会の開催

教育委員会会議の開催日等に合わせ、委員協議会を19回(24)14回開催しました。

協議会では、教育行政上の課題に適切かつ迅速に対応するため、全国的に取り上げられた教育に関する話題などについて事務局から適宜報告を行いました。

また、子ども・子育て新支援制度について資料提供を行うなど、教育委員の勉強会の場となっています。

(案件の主なもの)

- | | |
|----------------------|------------------|
| ・議会提出議案に関する事前説明 | ・いじめ対策等専門家チームの設置 |
| ・全国学力・学習状況調査結果への対応 | ・子ども・子育て新支援制度 |
| ・児童・生徒及び教職員の事件・事故の報告 | ・教職員人事異動方針 |
| ・教育委員会点検・評価報告書 | ・教育委員の活動状況の確認 等 |

4 移動教育委員会「語り合おう!はままつの教育」の開催

(1) 目的

教育委員会会議の様子を見て教育委員の役割や活動を知っていただくとともに、参加された市民の皆様や教職員と意見交換を行うことで、教育委員が家庭や教育現場の状況を肌で感じ、教育施策検討の参考にすることを目的に開催しました。

(2) 内容

今年度は、教育委員会の議事、教育長の話、意見交換を行う従来の開催方式に加え、「浜松市PTA指導者研修会」と「浜松市立南の星小学校・幼稚園教育報告会」に、移動教育委員会として教育委員が参加し、各小中学校の保護者代表や教員との意見交換などを行いました。

(3) 出席者

- ・教育委員、教育長
- ・学校教育部長、学校教育関係課長

(4) その他

- ・開催地域は、昨年度未開催の東区、北区、南区の会場において、年3回（市内3会場）開催しました。
- ・報道発表、ホームページ、学校だより等への掲載に加え、より多くの保護者や地域で活動する方に参加していただくため、私立幼稚園や公立・私立保育園にも案内チラシを配布すると共に、民生・児童委員の会合や区協議会において、参加者を募集しました。
- ・開催後、意見交換の内容等をホームページで公開しました。

(5) 開催結果

① 開催内容

会場	日時	参加者数	内容等
第1回(東区) 東区役所 3階 31・32会議室	8月2日(金) 19:00～20:40	43人	・教育委員会の議事(15分)、教育長の話(15分)に続き、意見交換(60分)を実施。 ・意見交換は特にテーマを決めず、参加された方が気軽に発言できるように2グループに分かれて実施。 ・参加者は一般市民。
第2回(北区) 浜松市教育会館 1階 大会議室	9月7日(土) 14:30～16:00	(全体会) 約250人 (分科会) 38人	・浜松市PTA指導者研修会に教育委員が出席。 ・全体会での教育長講話(25分)に続き、分科会では教育委員の活動等の説明(15分)と「浜松の教育」をテーマにした意見交換を実施。 ・参加者は市内小中学校の保護者代表。
第3回(南区) 南の星小学校 南の星幼稚園 体育館等	11月8日(金) 13:15～16:20	教育報告会や 授業参観には 保護者や地域 の方が出席。	・平成23年度に五島小と遠州浜小の統合により開校した南の星小と同敷地内の南の星幼の教育報告会に教育委員が出席。 ・授業保育参観、教育報告会出席のほか、江南中学校区合同研修会に参加し、教職員と意見交換。

② 意見交換の内容

意見交換では、参加された皆様から、就学援助の手続きや全国学力・学習状況調査結果への対応、教職員の多忙化解消への取組、小中一貫教育などについて、多くのご意見、ご感想、ご要望等を伺うことができました。

質問には、教育委員長・教育長のほか、各担当課長が回答や説明を行いました。

また、当日ご発言できなかった参加者には、アンケート用紙にご意見等をご記入いただきました。

(ご質問の主なもの)

- ・就学援助の手続き
- ・全国学力・学習状況調査
- ・PTA活動への参加状況
- ・民生委員・児童委員との連携
- ・教職員の多忙化解消への取組
- ・避難訓練について
- ・道徳教育
- ・防災教育
- ・子どもの交通安全指導
- ・中山間地域の学校への支援
- ・教育委員の活動
- 等

③ 参加されたご感想、開催内容に関する主なご意見・ご要望等（アンケートより）

- ・教育委員と話をすることで身近に感じられると共に、教育のことを一生懸命考えて活動しているのがよくわかった。
- ・教育委員会の日頃の活動内容を把握することが難しい市民にとって、多少ではあるが理解できて、非常に有意義で勉強になった。
- ・教育委員や教育委員会の職員に、直接質問に対して答えてもらえるところがとても良かった。
- ・いろいろな方の熱い思いを聞くことができ感心した。学校生活をもっと盛り上げるよう、保護者として協力できることをしていきたい。
- ・親の教育について、大変関心がある。もっといろいろな人が学校や子どもに関心をもってほしい。
- ・小中一貫校の小中学校の間に、「連続性」「接続性」「独立性」がある点をはじめで知り、勉強になった。
- ・全国学力調査の結果、静岡県の下げ幅が大きかったと報道された。浜松の教育において、今一度子どもたちの力をつけることを考えてほしい。
- ・教育委員会は速効性のない組織のような気がする。教育の現場から距離があるためか、問題に対する検討や対策に時間がかかり、その結果も現れていない。
- ・できるだけ多くの時間で参加者からの意見を聞けるように、話し合う工夫をしてほしい。
- ・少人数での意見交換は、非常に良かったが、多くの意見を聞くには、より少ないかたちでの開催が望ましい。
- ・まとまりのある議論にするためには、事前に話し合うテーマを決めておくほうがよい。
- ・話が尽きなく範囲も広いので、回数を増やしたり、開催場所を変えたりして続けてほしい。

④ 平成26年度の開催希望（アンケートより）

はい	いいえ	どちらともいえない	無記入	計
13(50.0%)	4(15.4%)	6(23.1%)	3(11.5%)	26

（主な理由）

- ・教育委員、教育長の言葉が直接聞ける。
- ・教育委員会がどのようなものか知ることができる。
- ・浜松の教育を理解するうえで勉強になる。
- ・時間の経過の中で起こる様々な問題に、即応した市民の声を聴くことが必要である。
- ・参加した市民が、お互いにいろいろな意見を聞くことができる。



<9月7日 教育会館>

5 広報活動

(1) ホームページによる教育委員会の情報提供

今年度、浜松市ではホームページをリニューアルしました。
教育委員会に関する情報は、ホームの「教育・文化スポーツ」から検索できます。
主な情報を紹介します。

① お知らせ

- ・全国学力・学習状況調査の結果や、この結果を受け学力向上のための具体策として作成した「学力向上やらまいかプラン」を掲載しました。
- ・給食用食材の産地やインフルエンザによる学級閉鎖の状況など、子どもの健康等に関する身近な情報を随時更新しました。
- ・浜松市奨学生の募集や入学（園）式、卒業(園)式の日程など、問い合わせの多い内容について掲載しています。

② ブログページ（リンク集から）

スポーツ大会や文化活動等において優秀な成績を収めた児童生徒の教育長表敬訪問の様子や、教育センターが行っている浜松教師塾をはじめとした研修、指定公開保育、教育講演会の開催結果等を掲載しています。

③ 申請・手続き

浜松市教育委員会の事業後援の申請方法や市立幼稚園・小中学校の入園・入学手続き、転居する場合の手続きなどについて掲載しています。

④ 相談

学校生活、友人関係、不登校など教育全般に関する相談や、いじめに関する専用ダイヤル「浜松市いじめ子どもホットライン」などの相談窓口を紹介しています。

⑤ 教育施策

第2次浜松市教育総合計画、小中一貫教育、少人数学級編成、学校・幼稚園規模適正化など、様々な教育施策の展開について詳しく説明しています。

⑥ その他

教職員・支援員等の採用や募集に関する情報や教育実習の受け入れについて、小中学校の通学区域なども掲載しています。また、浜松市立の各幼稚園・小中学校のホームページにもリンクしています。

(2) 「はままつ教育」の発行

平成23年度から26年度までの4年間の「はままつの人づくり」の方向性を示した「第2次浜松市教育総合計画」の中心となる考え方や、主な取組内容を市民の皆様に伝えるため、リーフレット「はままつ教育」を発行しました。

① 平成25年度版発行部数

90,000部

② 配布先

- ・市立幼稚園、小中学校、高校の保護者及び教職員
- ・協働センター（旧公民館）、図書館
- ・市政情報室、区役所、協働センター
- ・移動教育委員会（参加者に配布）
- ・その他行政機関、議会、視察対応等



6 平成25年度の教育委員会活動の検証と今後について

教育委員会では、教育に関わる様々な事業の実施や短期的・中長期的な課題に対応するため、合議体の執行機関として、教育委員は毎月1回の定例会に加え、必要に応じて臨時会に出席して話し合いを行い、対策や方向性等を決定しています。

今年度は、相次いだ教職員の不祥事や全国学力・学習状況調査の結果に現れた学力低下の問題、ノロウイルスによる集団食中毒など多くの事案が発生し、強い危機感を持って、その対応に取り組みました。今後も、突発的な事件・事故や緊急性の高い案件には、迅速な情報収集や初期対応に努めてまいります。

教育委員と市民の皆様が膝を交えて話し合う機会として、平成22年度から開催している移動教育委員会「語り合おう！はままつの教育」は、本年度、開催方法を見直しました。地域の皆様のご意見のほか、保護者や教職員からも直接考えを聞きたいという教育委員の提案により、一般参加者を募る従来の方式に加え、浜松市PTA連絡協議会の研修会の場や、南の星小と南の星幼の教育報告会に参加し、授業・保育参観のほか江南中校区の合同研修会に出席し、参観した授業について話し合う教職員の研修にも加わり意見交換を行いました。来年度以降もより多くの市民の皆様と直接対話できるようよりよい開催方法を検討してまいります。

広報活動では、今年度、浜松市のホームページが全面的にリニューアルされましたが、リーフレット「はままつの教育」と併せ、引き続き教育に関する様々な情報を積極的に発信してまいります。

現在、国では、教育委員会制度について、権限や責任の所在の明確化など、制度を改正する動きが本格化しています。今後、改正法案が国会に提出されることが見込まれますが、浜松市教育委員会としてはこの動きを注視しつつも、市長事務部局と緊密な連携を図りながら、よりよい浜松の教育を目指し、責任を果たしてまいります。

教育委員の意見

教育委員会制度のあり方が問われています。

教育委員が非常勤であるからこそ、それぞれの経験に基づいた意見を述べ、教育に関する課題を真剣に話し合えるのだと思います。

本年度は教員の不祥事、学力問題、ノロウイルスと次々と難題が起きました。

教育長及び教育委員長が同時に交代もしました。

いろいろな問題が生じた時に、いつも最初に関わるのは子どもたちであり、学校にいる先生方であること、教育の主役は子どもたちであり、どうすれば安全で楽しく学校生活を送れるのか、そこを忘れてはいけません。

教育委員会は、そのために全面的にバックアップをして、何事が起きても、迅速に適切な指示を出さなければなりません。私たち教育委員も、できるだけ学校に向き、子どもたちや先生方の声を聴き、人づくりをめざす浜松の教育に尽力したいと考えています。

(太田佳子委員長)

(参考) 教育委員会議案・報告事項等一覧 ※議案の内容は P68 の 2(3)「議案の内容」の番号と対応しています。▶

開催日	区分	番号	議案	所管課	議案の内容			
(臨)4月1日(月)	議案	1	浜松市教育委員会委員長の選挙について	教育総務課	⑤			
	傍聴1人	議案	2	浜松市教育委員会委員長職務代理者の指定について	教育総務課	⑤		
4月26日(金)	傍聴2人	議案	3	浜松市社会教育委員の委嘱について	生涯学習課	④		
		議案	4	浜松市教育委員会職員安全衛生規程の一部改正について	教育総務課	②		
		報告	1	平成25年度園児・児童・生徒数について	教育総務課			
		報告	2	浜松市教育センター運営委員会委員の委嘱及び解嘱について	教育センター			
		報告	3	全国学力・学習状況調査について	指導課			
		報告	4	学校防災について	保健給食課			
		報告	5	平成24年度学校給食用食材の放射性物質検査結果について	保健給食課			
		報告	6	平成24年度浜松市立高等学校の部活動と進路の状況について	市立高校			
5月22日(水)	傍聴3人	議案	5	平成25年度5月補正予算(案)の議会提案について		①		
		議案	6	浜松市立図書館条例の一部改正の議会提案について	中央図書館	①		
		議案	7	浜松市博物館条例の一部改正の議会提案について	文化財課	①		
		議案	8	公の施設の閉館日及び開館時間を拡大するための関係条例の整備に関する条例の制定の議会提案について【浜松市立図書館条例及び浜松市博物館条例関係】	中央図書館・文化財課	①		
		議案	9	浜松市立図書館条例施行規則の一部改正について	中央図書館	②		
		議案	10	教職員の人事について	教職員課	③		
		報告	9	平成25年度浜松市奨学生の選考結果について	教育総務課			
		報告	10	平成24年度小中学校の通学区域制度の弾力的運用実績について	教育総務課			
		報告	11	平成24年度における学校施設の被害状況について	学校施設課			
		報告	12	平成26年度浜松市立小・中学校教員採用選考試験応募状況について	教職員課			
		報告	13	平成24年度問題行動、いじめ及び不登校の実態について	指導課			
		報告	14	園児・児童・生徒の交通事故状況と不審者情報について	保健給食課			
		報告	15	思いやりトークデー・キッズウェルカムデーの試行について	美術館			
		報告	16	浜松市子ども読書活動推進会議委員の委嘱及び任命について	中央図書館			
		6月19日(水)	傍聴2人	議案	11	浜松市文化財保護審議会委員の委嘱について	文化財課	④
				議案	12	浜松市博物館協議会委員の委嘱について	文化財課	④
議案	13			浜松市美術館協議会委員の委嘱及び任命について	美術館	④		
議案	14			浜松市立図書館協議会委員の委嘱及び任命について	中央図書館	④		
議案	15			浜松市立図書館条例施行規則の一部改正について	中央図書館	②		
議案	16			浜松市スポーツ推進審議会委員の委嘱及び解嘱について	スポーツ振興課	④		
報告	17			平成25年5月議会代表・一般質問について				
報告	18			学校給食費の未納状況について	保健給食課			
7月11日(木)	傍聴4人	議案	17	平成26年度使用浜松市立高等学校教科用図書採択について	市立高校	⑧		
		報告	19	移動教育委員会「語り合おう!はままつの教育」の開催について	教育総務課			
		報告	20	教職員の体罰に関する調査結果について	教職員課			
		報告	21	平成24年(ワ)696号謝罪請求事件について	教職員課			
(臨)8月2日(金)	傍聴43人	報告	22	浜松市公共施設屋根貸し太陽光発電事業について	学校施設課			
8月21日(水)	傍聴3人	議案	18	浜松市立幼稚園園則の一部改正について	教育総務課	②		
		議案	19	浜松市立小・中学校通学区域の一部改正について	教育総務課	⑦		
		議案	20	浜松市学区外就学許可基準の一部改正について	教育総務課	⑦		
		議案	21	教職員の人事について	教職員課	③		
(臨)9月7日(土)	議案	22	教職員の人事について	教職員課	③			
(臨)9月20日(金)	議案	23	教職員の人事について	教職員課	③			
	議案	24	職員の人事について	教育総務課	③			
	議案	25	職員の人事について	教育総務課	③			
9月25日(水)	傍聴6人	議案	26	平成25年度9月補正予算(案)の議会提案について		①		
		議案	27	浜松市立学校給食センター条例の一部改正の議会提案について	保健給食課	①		
		議案	28	公の施設の閉館日及び開館時間を拡大するための関係条例の整備に関する条例の制定の議会提案について【浜松市立図書館条例関係】	中央図書館	①		
		議案	29	浜松市教職員住宅管理規則の一部改正について	学校施設課	②		
		議案	30	浜松市立小中学校管理規則の一部改正について	教育総務課	②		
		報告	23	平成25年9月議会代表・一般質問について				
		報告	24	平成25年度海外教育事情調査について	教育センター			
		報告	25	平成25年度全国・東海中学校体育大会結果について	指導課			
		報告	26	平成25年度高体連、高文連の大会結果について	市立高校			
		報告	27	平成25年度「全国学力・学習状況調査」浜松市の結果(概要)	指導課			
(臨)10月3日(木)	傍聴2人	議案	31	浜松市教育委員会委員長職務代理者の指定について	教育総務課	⑤		

開催日	区分	番号	議案	所管課	議案の内容
10月17日(木) 傍聴6人	議案	32	浜松市立学校給食センター条例施行規則の一部改正について	保健給食課	②
	議案	33	浜松市立小・中学校通学区域の一部改正について	教育総務課	⑦
	議案	34	教職員の人事について	教職員課	③
	報告	28	平成26年度採用浜松市立小・中学校教員採用選考試験(第2次)選考結果について	教職員課	
	報告	29	平成25年度浜松市優秀教職員表彰について	教職員課	
	報告	30	教職員の不祥事対策について	教職員課	
(臨)11月25日(月)	議案	35	職員の人事について	教職員課	③
	議案	36	職員の人事について	教育総務課	③
	議案	37	職員の人事について	教育総務課	③
11月28日(木) 傍聴3人	議案	38	平成25年度11月補正予算(案)の議会提案について		①
	議案	39	浜松市立小中学校施設使用料条例の一部改正の議会提案について	学校施設課	①
	議案	40	湖西市と浜松市との間の教育研修等に関する事務の委託の廃止の議会提案について	教育センター	①
	議案	41	指定管理者の指定の議会提案について	中央図書館	①
	議案	42	指定管理者の指定の議会提案について	中央図書館	①
	議案	43	指定管理者の指定の議会提案について	中央図書館・文化財課	①
	議案	44	指定管理者の指定の議会提案について	中央図書館	①
	議案	45	浜松市立熊切小学校の統廃合等について	教育総務課	⑩
	報告	31	平成26年度浜松市立幼稚園園児募集の結果について	教育総務課	
	報告	32	平成25年度幼稚園教諭採用試験結果について	教職員課	
	報告	33	平成25年度国民体育大会結果及び全国大会出場等について	市立高校	
	12月19日(木) 傍聴8人	報告	34	浜松市立図書館評価(平成24年度)について	中央図書館
報告		35	第5回浜松市調べ学習コンクール審査結果について	中央図書館	
議案		46	文化財保護法第97条に関する県からの権限移譲事務について	文化財課	①
議案		47	浜松市教育委員会委員長の選挙について	教育総務課	⑤
議案		48	浜松市教育委員会委員長職務代理者の指定について	教育総務課	⑤
議案		49	浜松市教育長の選任について	教育総務課	⑤
1月30日(木) 傍聴5人	報告	36	平成25年11月議会代表・一般質問について		
	報告	37	平成25年度海外教育事情調査報告について	教育センター	
	報告	38	浜松市教育センター運営委員会委員の委嘱及び解嘱について	教育センター	
2月21日(金) 傍聴2人	報告	39	第54回浜松市内児童・生徒読書感想文コンクールについて	中央図書館	
	報告	40	ノロウイルスによる小学校等における集団食中毒発生について	保健給食課	
	議案	50	平成25年度2月補正予算(案)の議会提案について		①
	議案	51	平成26年度当初予算(案)の議会提案について		①
	議案	52	浜松市立高等学校授業料等に関する条例の一部改正の議会提案について	市立高校	①
	議案	53	消費税率及び地方消費税率の引上げに伴う関係条例の整備に関する条例制定の議会提案について【浜松市立小中学校施設使用料条例・浜松市立高等学校施設使用料条例・浜松市かわな野外活動センター条例・浜松市博物館条例・浜松市美術館条例関係】	学校施設課・市立高校・指導課 ・博物館・美術館	①
	議案	54	公の施設の閉館日及び閉館時間を拡大するための関係条例の整備に関する条例の制定の議会提案について【浜松市立図書館条例関係】	中央図書館	①
	議案	55	浜松市学童等災害共済条例の一部改正の議会提案について	保健給食課	①
	議案	56	浜松市教育センター条例の一部改正の議会提案について	教育センター	①
	議案	57	浜松市立幼稚園条例の一部改正の議会提案について	教育総務課	①
	議案	58	浜松市社会教育委員条例の一部改正の議会提案について	生涯学習課	①
	議案	59	第2次浜松市教育総合計画(平成25年度)『はままつの人づくり』検証報告書(案)について	教育総務課	⑥
議案	60	平成24～27年度浜松市学校・幼稚園規模適正化基本方針の改訂について	教育総務課	⑥	
議案	61	浜松市指定文化財の指定について(鳥羽山城跡)	文化財課	⑩	
報告	41	学校・幼稚園規模適正化平成25年度取組状況報告について	教育総務課		
(臨)3月3日(月)	議案	62	平成25年度2月補正予算(案)の議会提案について		①
	議案	63	浜松市立小中学校施設使用料条例の一部改正の議会提案について	スポーツ振興課	①
	議案	64	平成25年度末県費負担教職員人事異動(案)について	教職員課	③
	議案	65	平成25年度末市費負担学校等職員人事異動(案)について	教職員課	③
	議案	66	平成25年度教育委員会点検・評価報告書(案)について	教育総務課	⑧
	議案	67	浜松市スポーツ推進計画の策定について	スポーツ振興課	⑥
	議案	68	浜松市いじめの防止等のための基本的な方針(案)について	指導課	⑥
3月20日(木) 傍聴2人	議案	69	浜松市教育センター等業務規則の一部改正について	教育総務課	②
	議案	70	教育委員会の権限の一部を教育長に委任する規則の一部改正について	教育総務課	②
	議案	71	浜松市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について	教育総務課	②
	議案	72	浜松市教育委員会専決規程の一部改正について	教育総務課	②
	議案	73	浜松市教育委員会公印規則の一部改正について	教育総務課	②
	議案	74	浜松市教育委員会職員職名規程の一部改正について	教職員課	②
	議案	75	浜松市教育センター条例施行規則の一部改正について	教育センター	②
	議案	76	浜松市埋蔵文化財保護事務に関する規則の一部改正について	文化財課	②
	議案	77	浜松市スポーツ推進審議会委員の委嘱について	スポーツ振興課	④
	議案	78	平成25年度末県費負担教職員人事異動(案)について	教職員課	③
	議案	79	平成25年度末教育委員会事務局職員人事異動(案)について	教育総務課	③
	報告	42	平成26年2月議会代表・一般質問について		

(参考) 教育委員会の活動状況一覧 ※は教育長のみ出席

月	教育委員会・委員協議会	会議出席	学校・施設訪問	その他
4	1 臨時教育委員会 臨時委員協議会	16 静岡県市町教育委員会 連絡協議会総会 静岡市	9 市立高校入学式 市立高校	16 校長・園長会 アクトコング レスセンター
	26 教育委員会 委員協議会	19 静岡県都市教育長協議会 役員会・総会※ 沼津市 24 浜松市奨学生選考委員会		
5	22 教育委員会 委員協議会	31 関東甲信静市町村教育委員会 連合会総会・研修会 つくば市		1 教員研修講師 (学校評価・組織マネジメント) 教育会館 8 浜松教師塾開講式 教育センター 10 教員研修講師 (トップリーダー) 教育会館 17 教員研修講師 (いじめ対応) 教育会館 22 教員研修講師 (発達支援教育リーダー) 教育センター
	19 教育委員会 委員協議会	6 静岡県・政令市教委3者意見交換会 静岡市 13 第1回指定都市 教育委員・教育長協議会 相模原市 27 はままつの教育推進会議 (小中一貫教育 第1回)	12 指定公開保育 光明幼 28 指定公開保育 奥山幼	3 教員研修講師 (ユニバーサルデザイン推進) 教育会館 5 教員研修講師 (キッズサポーター) 教育センター 7 教員研修講師 (外国語リーダー養成) 教育会館
7	11 教育委員会 委員協議会	8 はままつの教育推進会議 (第3次教育総合計画 第1回) 11 はままつの教育推進会議 (学校規模適正化 第1回) 16 静岡県都市教育長協議会 役員会・研修会※ 静岡市		12 三遠南信 教育サミット 長野県 阿智村 26 浜松市教育研究会 30 第2回研修会巡回訪問 都田南小他
	2 臨時教育委員会 (移動教育委員会) 臨時委員協議会 21 教育委員会 委員協議会	19 静岡県市町教育長協議会 役員会・研修会※ 浜松市		6 「わたしの主張2013」 静岡県大会 はまホール 7 三遠南信中学生交流会 かわな野外 活動センター 8 市民文教委員会議員 との意見交換会 議会会議室 9 教育講演会 市立高校 17 第43回全国中学校 剣道大会開会式 浜松アリーナ 20 夏休み夢会議 浜松市議会 議場
9	7 臨時教育委員会 臨時委員協議会	7 移動教育委員会 教育会館	12 秋野不矩美術館 特別展開会式 秋野不矩 美術館	26 市長と教育委員との 懇談会(1回目) 秘書課 市長室
	20 臨時教育委員会 臨時委員協議会 25 教育委員会 委員協議会	24 第1回学校を元気にする委員会 教育会館 25 第1回免許状更新講習判定委員会 教育センター		

月	教育委員会・委員協議会	会議出席	学校・施設訪問	その他
10	3 臨時教育委員会 臨時委員協議会 17 教育委員会 委員協議会	10 はままつの教育推進会議 (少人数学級 第1回)	7 北浜中学校区地域 フォーラム 北浜中 23 浜松産米飯給食試食会 和地小 23 指定校発表会 金指小 29 指定公開保育 万斛幼 31 指定校発表会 雄踏小	25 人事関係業務 教育センター
11	15 臨時委員協議会 25 臨時教育委員会 臨時委員協議会 28 教育委員会 委員協議会	5 はままつの教育推進会議 (小中一貫教育 第2回) 8 移動教育委員会 南の星小 11 静岡県市町教育委員研修会 浜松市 15 はままつの教育推進会議 (第3次教育総合計画 第2回)	6 指定校発表会 中郡中 12 指定公開保育 北庄内幼 14 指定校発表会 湖東中	
12	19 教育委員会 委員協議会	10 はままつの教育推進会議 (教育総合計画 第1回) 11 第2回免許状更新講習判定委員会 教育センター		
1	30 教育委員会 委員協議会	21 はままつの教育推進会議 (教育総合計画 第2回) 29 第2回指定都市 教育委員・教育長協議会 東京都		8 人事関係業務 教育センター 9 人事関係業務 12 成人式 市内各会場 20 人事関係業務 教育センター 21 教育委員勉強会
2	21 教育委員会 委員協議会	6 はままつの教育推進会議 (学校規模適正化 第2回) 13 はままつの教育推進会議 (小中一貫教育 第3回) 20 はままつの教育推進会議 (第3次教育総合計画 第3回)		7 長期研修員研究報告会 研究員研究発表会 教育センター 13 市長と教育委員との 懇談会(2回目) 秘書課 市長室 21 浜松教師塾修了式 教育センター
3	3 臨時教育委員会 20 教育委員会 委員協議会	14 はままつの教育推進会議 (第3次教育総合計画 第4回)	1 市立高校卒業式 市立高校 18 中学校卒業式 各中学校 19 小学校卒業式 各小学校 22 北庄内小・南庄内小 閉校式 各小学校 23 龍山第一小・大平小 閉校式 各小学校	5 人事関係業務 情報センター
計	教育委員会 19回 委員協議会 19回	会議出席 27回	学校・施設訪問 17回	その他 28回

IV 附属機関及び庁内会議

1 附属機関（6機関）（㊤6機関）

No.	名称	設置年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
1	浜松市スポーツ推進審議会	昭和37年4月1日	スポーツ基本法第35条の規定に係る答申のほか、教育委員会の諮問に応じてスポーツの振興に関する次に掲げる事項について調査審議し及びこれらの事項に関して教育委員会に建議する。 (1)スポーツ基本法第10条第1項に規定する地方スポーツ推進計画に関すること。 (2)スポーツの施設及び設備の整備に関すること。 (3)スポーツの指導者の養成及び資質の向上に関すること。 (4)スポーツの事業の実施及び奨励に関すること。 (5)スポーツの団体の育成に関すること。 (6)スポーツの技術水準の向上に関すること。 (7)前各号に掲げるもののほか、スポーツの推進に関すること。	スポーツ基本法 第31条 浜松市スポーツ推進審議会に関する条例	スポーツ振興課
2	浜松市社会教育委員会	昭和25年2月1日	<ul style="list-style-type: none"> ・社会教育に関する諸計画の立案 ・教育委員会の諮問に応じ意見を述べる ・上記職務を行うための調査研究 等 	社会教育法第15条第1項 浜松市社会教育委員条例第1条	生涯学習課
3	浜松市文化財保護審議会	昭和52年4月1日	審議会は、教育委員会の諮問に応じて文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、並びにこれらの事項について教育委員会に建議する。	文化財保護法第190条第1項 浜松市文化財保護条例第43条	文化財課
4	浜松市博物館協議会	昭和54年4月1日	博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。	博物館法第20条第1項 浜松市博物館条例第17条	文化財課 (博物館)
5	浜松市美術館協議会	昭和46年7月1日	美術館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる。	博物館法第20条第1項 浜松市美術館条例第18条	美術館
6	浜松市立図書館協議会	昭和25年9月5日	図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる。	図書館法第14条第1項 浜松市立図書館協議会条例	中央図書館

開催回数		H25 平均 開催 時間	委員数			情報公開			平成25年度の主な審議・活動内容	No.	
H 24	H 25		知識 経験者	市民 委員	行政 職員 等	計	傍 聴	会 議 録			会 議 資 料
4	5	2:00	10			10	公開	公開	公開	<p>浜松市スポーツ振興基本計画に基づき、スポーツ振興施策を審議</p> <p>1 現行の浜松市スポーツ振興基本計画が平成25年度までの計画であるため、平成25年度は、平成24年度から継続して「浜松市スポーツ推進計画」策定に向けた協議をしている。</p> <p>○浜松市スポーツ推進計画策定に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作成スケジュール及び全体構想について ・目標と指標、数値目標について ・浜松市の現状について ・具体的な取り組み及び目標について ・補足資料について 	1
4	4	2:00	9		1	10	公開	公開	公開	<p>1 浜松市生涯学習推進大綱の進捗状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第33期社会教育委員会の取り組み <p>2 生涯学習事業について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度生涯学習事業報告 ・平成25年度生涯学習事業計画 <p>3 テーマ「協働センター等における生涯学習事業の今後の方向性・展望」について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的事業の検証 ・人材養成講座受託者による発表 ・事業案の検討 <p>4 社会教育関係団体の補助金について</p> <p>5 平成26年度指定都市社会教育主管課長会議及び社会教育委員連絡協議会(浜松大会)の開催について</p>	2
3	3	2:00	8			8	公開	公開	公開	<p>市指定文化財の保全、活用について審議し、必要に応じて現地を調査する。また、文化財課の事業について審議する。指定文化財に関する事項を建議する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成24年度文化財保護事業報告について 2 平成25年度文化財保護事業計画について 3 指定文化財の現況調査と報告、協議 4 浜松市指定文化財の新指定について建議 	3
4	4	2:00	7			7	公開	公開	公開	<p>浜松市博物館の当該年度の事業について審議し、評価等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 浜松市博物館協議会会長及び職務代理者の選出 2 平成24年度事業報告及び平成25年度事業計画の報告 3 博物館の現状と諮問内容の報告 4 博物館の自己評価の指標が適正かどうかの確認 	4
2	2	2:00	6		2	8	公開	公開	公開	<p>浜松市美術館及び浜松市秋野不矩美術館の事業について、審議し評価等を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 会長の選出について 2 会長職務代理者の指名について 3 平成24年度美術館事業報告について 4 平成25年度美術館事業計画について 5 その他 6 報告事項(教育普及活動について) 	5
3	3	2:00	9		1	10	公開	公開	公開	<ol style="list-style-type: none"> 1 平成24年度図書館事業報告について 2 平成25年度図書館事業計画について 3 図書館評価について 	6

2 庁内会議（16組織）（2414組織）

No.	名称	設置年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
1	はままつの教育推進会議	平成21年4月1日	はままつの教育の円滑な推進を図ることを目的とし、次の事項について協議する。 (1)教育総合計画の推進・進行管理に関すること (2)学校・幼稚園規模適正化の円滑な推進に関すること (3)その他必要な事項に関すること	はままつの教育推進会議設置要綱	教育総務課
2	浜松市就学指導委員会	平成16年4月1日	特別な支援を要する幼児・児童・生徒の適正な就学指導を行い、発達支援教育の推進を図る。 (1)特別支援学校入学者及び発達支援学級入級者の判断と就学相談に関すること (2)障害のある幼児・児童・生徒の就学指導に関する諸問題、研究に関すること (3)その他目的を達成するために必要な事項に関すること	浜松市就学指導委員会規則	教職員課
3	浜松市指導力向上教員審査委員会	平成20年4月1日	児童、生徒又は幼児に対する指導力の向上が必要な教員に係る認定、人事上の措置等に関する意見を求める。 (1)指導力向上教員の判定に関すること (2)精神的な疾患の疑いのある教員の医療機関への受診の要否に関すること (3)職場復帰に関すること (4)指導力向上教員の分限免職、その他の人事上の措置に関すること (5)上記に掲げるもののほか、指導力向上教員への対応に関すること	浜松市指導力向上教員審査委員会設置要綱	教職員課
4	浜松市教職員健康審査会	平成19年4月1日	浜松市教育委員会の任命に係る小学校及び中学校に勤務する県費負担の教職員の健康管理の適正を期するため実施する。 (1)教職員の健康管理に関すること (2)教育長が必要と認めた者の特別休暇若しくは休職の要否又は職務復帰若しくは復職の可否について、病状の審査及び判定を行うこと (3)教職員として採用しようとする者の健康状態について審査及び判定を行うこと (4)その他教育長が必要と認めたこと	浜松市教職員健康審査会要綱	教職員課

開催回数		H25 平均 開催 時間	委員数			情報公開			平成25年度の主な審議・活動内容	No.
H 24	H 25		有 識 者 等	行 政 職 員 等	計	傍 聴	会 議 録	会 議 資 料		
10	12	2:00	20	13	33	公開	公開	公開	<p>1 教育総合計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2次浜松市教育総合計画の進行管理(検証・評価等)について ・児童、生徒及び幼・小・中の保護者を対象にしたアンケート調査結果について ・調査結果を踏まえた検証報告書の作成について ・第3次浜松市教育総合計画(案)の策定について <p>2 学校・幼稚園規模適正化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成25年度 学校規模適正化取組状況について ・規模適正化基本方針の見直しについて ・子ども・子育て支援新制度に伴う市立幼稚園について <p>3 小中一貫教育</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫校の設置について(引佐北部小中学校の状況、庄内学園の開校準備状況等) ・小中一貫教育の推進について(地域とともに推進する小中一貫教育の取組事例等) ・小中一貫カリキュラムの活用について(小中合同研修の開催、小中合同行事の実施等) <p>4 少人数学級(30人学級)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級編制の状況について ・小1・小2の少人数学級(30人学級)編制の実施について 	1
4	4	3:30	4	16	20	非公開	非公開	非公開	<p>幼稚園・学校及び保護者から申請があった特別な支援を要する幼児・児童・生徒の就学先の判断と就学指導などを行う。</p> <p>1 幼稚園・学校及び保護者からの就学相談の把握</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園、施設に「支援の必要な子ども」についてのアンケート調査実施 ・小学校、中学校に「支援の必要な子ども」についてのアンケート調査実施 ・保護者へ就学教育相談の案内送付 <p>2 就学相談、進路相談の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園、保育園を訪問し、実態調査実施 ・小学校、中学校を訪問し、実態調査並びに相談実施 ・幼児就学教育相談の実施 <p>3 就学先の判断と就学指導の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回浜松市就学指導委員会:新学齢児発達支援学級判断 ・第2回浜松市就学指導委員会:新学齢児特別支援学校判断 ・第3回浜松市就学指導委員会:児童・生徒発達支援学級判定、特別支援学校判断 ・第4回浜松市就学指導委員会:本年度の活動総括 	2
2	2	2:00	6	2	8	非公開	非公開	非公開	<p>1 「浜松市指導力向上教員の取扱いに関する規則」及び「浜松市指導力向上教員審査委員会設置要綱」の説明</p> <p>2 浜松市指導力向上教員研修の説明</p> <p>3 平成25年度前期研修者の研修報告</p> <p>4 平成25年度後期研修者の審査</p> <p>5 平成25年度後期研修者の研修報告</p> <p>6 平成26年度前期研修者の審査</p>	3
5	6	1:00	4		4	非公開	非公開	非公開	<p>1 審査部会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1部会:結核性疾患に係る事項 ・第2部会:精神・神経系障害に係る事項 ・第3部会:生活習慣病等に係る事項 <p>2 審議内容等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・書類審査 診断書・観察報告書・経過報告書・休曜日数計算書等 ・所属長等より病状についての報告 ・委員等からの質疑応答 ・判定 ・判定や指示事項の所属長への伝達 <p>3 教職員として採用しようとする者の健康状態について審査及び判定を行う。</p>	4

No.	名称	設置年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
5	浜松市教育センター運営委員会	昭和49年 4月1日	浜松市及び湖西市の教職員が一堂に会して研修することにより、効率的で高度な研修を実施する。これにより教職員の資質の向上を図り、教職に就く使命感を高め、指導力の向上を図ることを目的とする。 (1)教職員の専門的な研修や研究に関する年間事業計画案や予算案の審議 (2)広域事業に係る、事業報告、決算報告の承認 (3)社会教育諸団体の教育振興に関する意見の交換	湖西市と浜松市との間の教育研修等に関する事務の委託に関する規約第8条	教育センター
6	免許状更新講習判定委員会	平成25年 4月1日	教員免許状更新講習における履修の可否を判定するため設置する。	免許状更新講習判定委員会要綱	教育センター
7	はままつ人づくり教育推進協議会	平成22年 5月18日	園・学校が、「心の耕し」をキーワードに幼・小・中の連続性を踏まえて教育活動を進めるとともに、家庭・地域にも「心の耕し」が広がるようにするために、本市における人づくりに関する課題や具体的施策について研究協議し、園・学校に対して指導助言をすること等を通して、「はままつ人づくり教育」の振興と充実を図る。	はままつ人づくり教育推進協議会実施要項	指導課
8	浜松市不登校児支援協議会	平成19年 4月1日	浜松市の小中学校に在籍している不登校児等に対する指導の充実及び不登校対策の強化を図る。 (1)市内5か所の適応指導教室「ふれあい教室」、「かやの木教室」、「すぎのこ教室」、「オレンジ教室」、「とびうお教室」の運営及び協議 (2)不登校対策についての情報交換及び協議 (3)個別ケースについての情報交換	浜松市不登校児支援協議会設置要綱	指導課
9	幼児教育を考える会	平成13年 12月1日	浜松市内の全幼児に「生きる力」の基礎及び小学校以降の学校教育の基盤を培うことを目指し、幼児教育に関する課題・具体的施策について研究協議し、浜松市の幼児教育の振興と充実を図る。 (1)浜松市内の幼稚園・保育所における教育・保育内容の整合性の確保と連携の推進に関すること (2)小学校への円滑な接続を図るための幼稚園・保育所の保育の充実と小学校との連携の推進に関すること (3)その他幼児教育の振興と充実に関すること	幼児教育を考える会実施要項	指導課
10	浜松市国際理解教育推進協議会	平成5年 4月1日	浜松市においては多くの外国人児童生徒や帰国児童生徒が小中学校に在籍している。多様な文化背景を持った子どもたちが学校でともに就学することから多文化共生を可能にする教育の推進に努めなければならない。そこで、国際理解の中でも「外国人児童生徒教育」に焦点をあて、現実的な問題解決を図りながら、組織的・計画的に国際理解教育を研究推進する。 (1)外国人児童生徒受入の実態把握に関すること (2)初期適応指導の実践に関すること (3)浜松市の小中学校における国際理解教育の充実に関すること (4)その他必要な事項に関すること	浜松市国際理解教育推進協議会要綱	指導課

開催回数		H25 平均 開催 時間	委員数			情報公開			平成25年度の主な審議・活動内容	No.
H 24	H 25		有 識 者 等	行 政 職 員 等	計	傍 聴	会 議 録	会 議 資 料		
2	2	1:30	11		11	公開	公開	公開	<ul style="list-style-type: none"> 1 平成24年度事業報告、平成24年度決算報告の審査 2 平成25年度事業計画、平成25年度当初予算案の検討 3 平成25年度最終予算について 4 平成26年度当初予算内示額について 5 平成26年度事業計画案について 6 湖西市との研修に関する事務委託の廃止及び教育センター条例の改正について 	5
—	2	1:00	4		13	非公開	一部公開	一部公開	免許状更新講習の必修科目・選択科目それぞれに関する、受講者の履修状況及び試験結果を踏まえ、委員間で審議の上、受講者全員の履修認定を実施した。	6
3	2	2:00	8	6	14	公開	公開	公開	<p>はままつの人づくりに関する審議</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 「はままつ人づくり教育」の推進について <ul style="list-style-type: none"> ・「はままつ人づくり教育推進事業」の説明及び意見聴取 2 中学校区人づくり教育推進事業の推進について <ul style="list-style-type: none"> ・市内全中学校区における協議会設置及び事業内容の説明及び意見聴取 ・「北浜中学校区地域フォーラム」の参観 3 その他本市における「人づくり教育」の振興・充実に係る事項について 	7
2	2	1:30	5	9	14	公開	公開	公開	<p>指導の充実と不登校対策の強化を図るための情報交換及び協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 不登校児童生徒の現状について <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒は横ばい傾向 ・不登校の要因・背景の多様化・複雑化 ・医療や福祉機関との連携の必要性 2 浜松市における不登校対策について <ul style="list-style-type: none"> ・不登校児童生徒の居場所づくり ・適応指導教室の充実及び指導員の資質向上 ・地域密着型適応支援エリアの活動状況 3 各適応指導教室の取り組みについて <ul style="list-style-type: none"> ・新適応指導教室の開設について 	8
4	3	1:30	9	11	20	公開	公開	公開	<p>浜松市の幼児教育に関する課題・具体的施策について研究協議</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 「浜松市幼児教育振興アクションプログラム」の推進について <ul style="list-style-type: none"> ・進捗状況の確認と今後の方策検討 2 「幼児期に育てたい力」について <ul style="list-style-type: none"> ・指導資料の活用に係る意見交換 ・「家庭版」の活用に係る意見交換 3 「幼児期に育てたい力」から見る卒園・入学期の子どもの現状と課題について <ul style="list-style-type: none"> ・小学校1年生の授業参観、民間保育所の保育参観 ・幼稚園、保育所の教育・保育の充実と小学校教育への円滑な接続のあり方について意見交換 	9
2	3	2:00	3	23	26	公開	公開	公開	<p>外国人児童生徒を円滑に受け入れるために、現実的な問題解決を図りながら、組織的・計画的に将来を見据えた研究を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 1 教育相談支援センターを中心に実施している外国人児童生徒支援活動の啓発 2 部会による外国人児童生徒支援に関する研究 <ul style="list-style-type: none"> ・学校で使用可能な外国人児童生徒の個別支援計画書様式の検討・作成 ・外国につながる子どもの指導について講話及びワークショップ ・対話型能力測定ツール(DLA)の活用法の実践報告及び検討 	10

No.	名称	設置年月日	設置目的及び所掌事務	設置根拠	所管課
11	浜松市外国人子ども支援協議会	平成20年4月1日	外国人児童生徒の現状把握及び必要な教育支援についての情報交換を通じ、浜松市教育委員会が進める外国につながる子どもへの教育支援の充実に資する。 (1)外国人子ども教育支援の現状把握に関すること (2)外国人子ども教育支援の改善充実にに関すること (3)その他必要な事項に関すること	浜松市外国人子ども支援協議会設置要綱	指導課
12	浜松市学童等災害共済会議	平成22年4月1日	浜松市学童等災害共済条例施行規則第6条に規定する見舞金の支給決定を行う。 (1)会員より請求があり事務審査が完了した傷害見舞金の決定に関すること (2)会員より請求があった障害見舞金及び特別見舞金の決定に関すること (3)共済に関する基本的な施策について必要な事項の調査審議に関すること (4)前3号に規定するもののほか、共済見舞金について必要な事項を協議する	浜松市学童等災害共済会議設置要綱	保健給食課
13	浜松市子ども読書活動推進会議	平成19年4月1日	浜松市における子ども(0歳からおおむね18歳まで)の読書活動が「浜松市子ども読書活動推進計画」を指針として積極的に推進されるよう進捗状況を管理する。 (1)子ども読書活動推進計画の推進に関すること (2)子ども読書活動推進計画の進行管理に関すること (3)その他必要な事項に関すること	浜松市子ども読書活動推進会議設置要綱	中央図書館
14	浜松市史編さん執筆委員会	平成16年4月1日	浜松市史の編さんをする。 (1)市史編さんに関する方針の策定に関すること (2)市史編さん事業の計画の策定に関すること (3)市史編さんに必要な資料の収集を行い、市史の史料編及び通史編執筆に当たる	浜松市史編さん要綱	中央図書館
15	浜松市教育ネットワーク推進会議	平成14年4月1日	浜松市における教育の情報化を推進することを目的とする。 (1)教育の情報化の方向性に関すること (2)ネットワーク等の環境整備に関すること (3)その他目的を達成するために必要な事項	浜松市教育ネットワーク推進会議設置要綱	学校施設課
16	学校を元気にする委員会	平成24年2月13日	教職員に自覚と使命感をもたせ、学校組織の改善方法や職員集団の在り方等を提案する。 目的達成のための協議、必要に応じて事例研究や対策検討を行い、学校等に提案する。	学校を元気にする委員会設置要綱	教職員課

- ※・「免許状更新講習判定委員会」は平成25年度に新設
 ・「学校を元気にする委員会」は平成23年度臨時設置の継続

開催回数		H25 平均 開催 時間	委員数			情報公開			平成25年度の主な審議・活動内容	No.
H 24	H 25		有 識 者 等	行 政 職 員 等	計	傍 聴	会 議 録	会 議 資 料		
3	3	2:00	6	9	15	公開	公開	公開	外国人の子どもの教育支援に関する施策を検証・評価し、見直しを行う。 1 各立場から見た、外国人の子どもの現状と課題の検証 ・就労面から見た外国人保護者及び子どもの実態 ・学校(幼保小中高)における教育支援 ・保護者から見た外国人の子どもの教育支援 2 外国人の子どもの教育の在り方 ・平成25年度からの日本語・学習支援について(通級型から派遣型への支援体制の再構築) ・母語教育(幼児教育から高等教育)について	11
6	6	1:00	3	6	9	非公開	一部公開	一部公開	隔月開催 1 事務局が行った事務審査(会員の請求に基づき、診断証明書等による災害の認定と傷害見舞金を確定)の審査決定 2 災害報告書等に基づく災害の認定、会員の請求に基づく障害見舞金及び特別見舞金の審査決定 3 災害報告書や歯牙障害報告書等に基づく災害の認定、会員の請求に基づく特別見舞金及び歯牙傷害見舞金の審査決定 4 その他共済見舞金に関する必要な事項の協議	12
3	3	2:00	4	4	8	公開	公開	公開	1 平成24年度の実績報告を踏まえて平成25年度の取り組みについて確認 ・市立図書館の実績と計画 ・学校図書館の実績と計画 2 子どもの読書活動を推進している学校を視察して、現在の子ども読書環境の実態を把握 ・浜松市立引佐南部中学校見学 3 平成25年度の取り組み結果及び視察した推進中学校の内容を踏まえて、今後の推進策を検討	13
12	12	2:00	7	1	8	公開	公開	公開	1 「浜松市史 新編史料編(一～六)総目次・総索引」の印刷発注、校正および発刊 2 『浜松市史 五』(通史編)の原稿執筆・校訂及び編集作業	14
0	0	—		14	14	公開	公開	公開	開催無し	15
3	3	2:00		28	28	公開	公開	公開	1 学校を元気にするための取組の協議、提言の具現化への提案 2 教職員に自覚と使命感をもたせる取組の協議と提案	16

V まとめ

近年、我が国は少子高齢化、国際化、情報化に加え、核家族化の進展や地域交流の希薄化など、子どもを取り巻く様々な環境が変化しています。国においては、こうした社会経済状況の下、経済再生と共に教育再生を国の最重要課題と位置づけ、子どもたちが夢や希望を持って社会を生き抜く力を身に付けることができる教育の実現に取り組んでいます。また、昨年設置された教育再生実行会議からは、いじめ防止対策、道徳教育の充実、教育委員会制度改革等、多くの課題について提言が出されるなど、教育改革の必要性が問われています。

こうした中、平成25年度は、浜松市教育委員会にとって、非常に厳しい1年になりました。相次いで発生した教職員の不祥事は、本市の教育への信用を失墜させました。また、全国学力・学習状況調査では、学力低下の問題が浮き彫りとなりました。さらに、1月にはノロウイルスによる集団食中毒が発生し、子どもたちをはじめ多くの皆様に不安を与え、学校給食の安全性や信頼性を損なう事態となりました。こうした事態に対し、教育委員会は改めて深く反省するとともに、今年1月から新たに教育委員2名を加えた体制で、不祥事の再発防止や学力向上対策等の課題に全力で取り組み、地域や保護者の皆様からの信頼回復に努めてまいります。

浜松市教育委員会では、平成23年4月に策定した「第2次浜松市教育総合計画」に基づき、「夢と希望をもって学び続ける『世界にはばたく市民』の育成」を教育目標に掲げ、「幼児教育」の充実、「小中一貫教育」の推進、「学ぼう ふるさと浜松」の推進を、はままつの人づくりの3つの柱として、幼稚園・学校、家庭、地域が連携する中で、様々な取組を進めてまいりました。3年目を迎えた平成25年度教育総合計画の進捗状況の検証は、はままつ教育推進会議において、目標値の達成状況等をもとに、専門委員からそれぞれの経験や知識を踏まえたご意見をいただきながら、教育委員も参加して活発な議論を重ねました。この結果、平成25年度は、「達成状況、取組状況ともに、概ね良好である。」との評価をいたしました。

昨年、教育委員会制度の改革に関し、今後の地方教育行政の在り方について、中央教育審議会に諮問されました。審議会は教育長及び教育委員会の権限と責任の明確化、政治的中立性や継続性・安定性の確保、首長の責任の明確化等を視点に検討を重ね、答申を12月に提出し、国では制度改革の本格的な議論が始まっています。

新制度がその機能をより発揮するためには、首長と教育委員会とが十分な意思疎通を図りながら、地域の教育のあるべき姿を共有し、それぞれの役割と責任を果たしていくことが重要です。最近の教育課題は、福祉や子育てのほか、保健衛生や防災など、他の行政分野との関わりが一層求められることから、今後も教育委員会と市長部局が緊密な連携を図り、よりよい教育環境の向上に努めてまいります。そして、浜松市教育委員会は、一人ひとりの子どもを大切に、家庭や地域と一体となって「心の耕し」を軸とした幼児期からの一貫性のある人づくり教育を推進してまいります。

**平成25年度
教育委員会点検・評価報告書
平成26年3月**

浜松市教育委員会 教育総務課
〒430-0929
浜松市中区中央一丁目2番1号
イーステージ浜松オフィス棟6F
TEL.053-457-2401 FAX.053-457-2404
Email somu@city.hamamatsu-szo.ed.jp